

武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議
検討のまとめ

平成 30 年 8 月

武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議（以下「市民会議」という。）は、平成 29 年 2 月から 16 回にわたって、武蔵野市エコプラザ（仮称）（以下「エコプラザ（仮称）」という。）のあり方について議論を重ねてきた。市民会議では、新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会における 4 期にわたる議論の成果である、「エコプラザ（仮称）事業のあり方中間まとめ」を基礎として、全市的な視点で議論を行ってきた。この「検討のまとめ」は、市民会議の議論の結果を取りまとめたものである。

目次

本編

はじめに	2
1 ごみ処理施設にあるエコプラザ（仮称）	3
2 エコプラザ（仮称）の基本理念	4
3 エコプラザ（仮称）の機能と各階の配置構成	7
4 エコプラザ（仮称）の機能と空間利用	8
5 エコプラザ（仮称）の運営	10
6 今後の進め方	11
7 市民会議検討スケジュール	12
8 武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議設置要綱	13
9 武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議委員名簿	15

議論のあゆみ編

1 エコプラザ（仮称）の基本理念	19
2 エコプラザ（仮称）のもつ機能	23
3 エコプラザ（仮称）の空間利用	26
4 エコプラザ（仮称）の運営形態	30
5 エコプラザ（仮称）の管理運営	34

資料編

1 環境教育からESDへ	40
2 豊田市視察資料	48
3 温暖化啓発活動のご紹介と、エコプラザへの期待	51
4 水の学校とは	63
5 機能・空間活用グループワークのまとめ①	68
6 機能・空間活用グループワークのまとめ②	71
7 機能・空間活用グループワークのまとめ③	73
8 エコプラザ（仮称）ニュースレターvol.1	75

はじめに

今、環境の世紀といわれる 21 世紀に入り、各地で自然災害や地球規模での環境問題に多く見舞われ、変化の激しさに戸惑うのではなく、地域の生活や文化、さらに社会、経済を支える多様なセクターが社会的責任を共有して、持続可能な社会・地域づくりにむけて、足元から気づき、連携し、共創していくことが求められています。

武蔵野市エコプラザ（仮称、以下「エコプラザ（仮称）」という。）のあり方を考えてきた「市民会議」は、マルチステークホルダーの原則にのっとり、「行政」にすべてお任せではなく、「環境」への課題解決に地域に根付いている「当事者性」による市民の意識と覚悟により、地域全体としての最適解を求めるための政策策定プロセスへの「意味ある参加」として位置づけられます。

約 1 年半にわたる「市民会議」で、次のように議論を重ねてきました。新しいクリーンセンター建設の歴史的継承の意義の忌憚のない意見交換、武蔵野市における多様な環境課題に対する取り組みへの共有、「市民会議」構成委員の環境への取り組みの相互の学びと意見交換と共有、ワークショップや他施設へ視察などによって、低炭素モデル地域の実現、地域での取り組みをつなぎ、広げ、個人の行動変容から地域の力へと変容させていくプロセスを重視し、まちづくりへとつなげていく、というコンセプトを明快にしながらかエコプラザ（仮称）の目指す方向性を具体化してきました。

具体的には、「過去に学び・今を知り・未来から学ぶ」という柱のもと、時代の変化やニーズ、価値観の変化に多様な主体が「しなやかに」「学び合い」「はぐくみ合い」ながら「発展」していく「場」であることを「検討のまとめ」として提案しています。「ごみゼロ」地域・社会を目指すことにより、現世代だけでなく次の世代の子どもたちに「誇れ」、未来に「つなぐ」こと、さらにSDGsに貢献していく事業が展開できるよう市民・事業者・行政が協同・協働できるよう「未来への確かな構想」を共創し、実践していく「場」として議論を重ねてきました。

おわりに、「市民会議」を構成する市民委員の方々の有する専門性と独自性に富む実践に学ぶ姿勢、協働力、さらに武蔵野市の行政官の専門性と縦割りをつなぐ努力、エコマルシェなどで「市民（子ども＋大人）の声」を聴く努力と適切な情報提供と透明性、静かな情熱に支えられて会議を進め、「検討のまとめ」を策定することができましたことに感謝申し上げます。

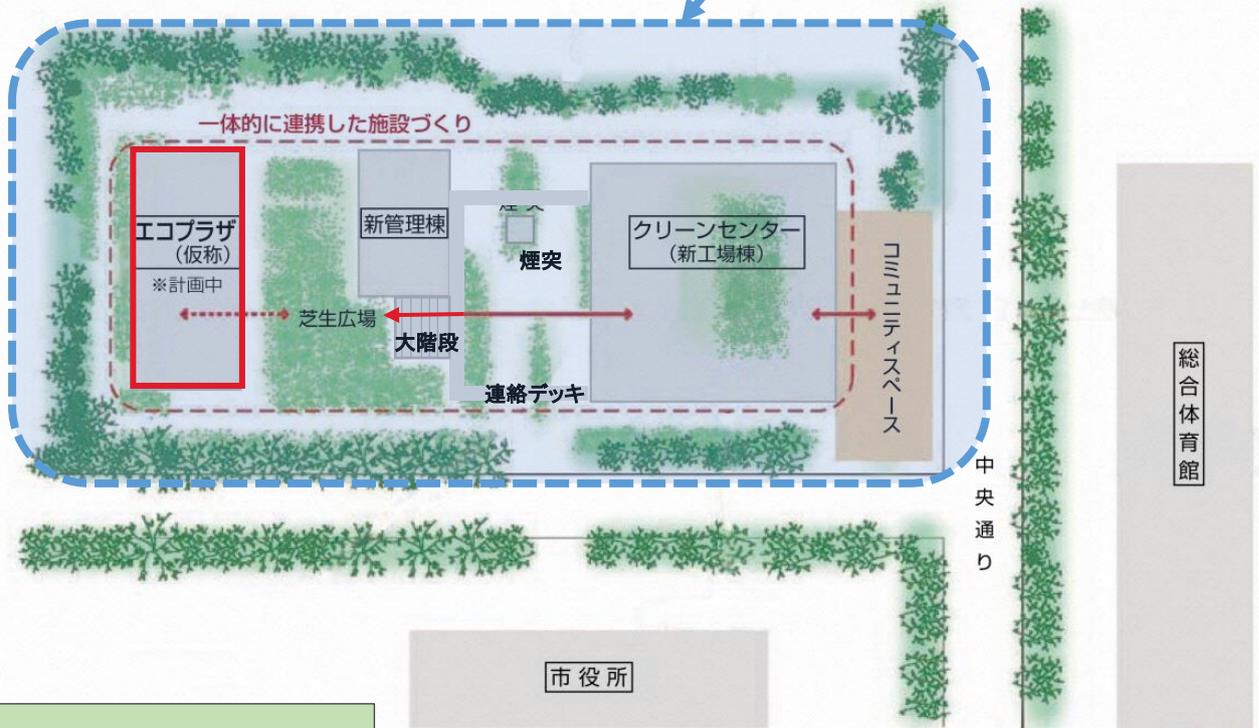
武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議委員長

小澤 紀美子

1 ごみ処理施設にあるエコプラザ（仮称）

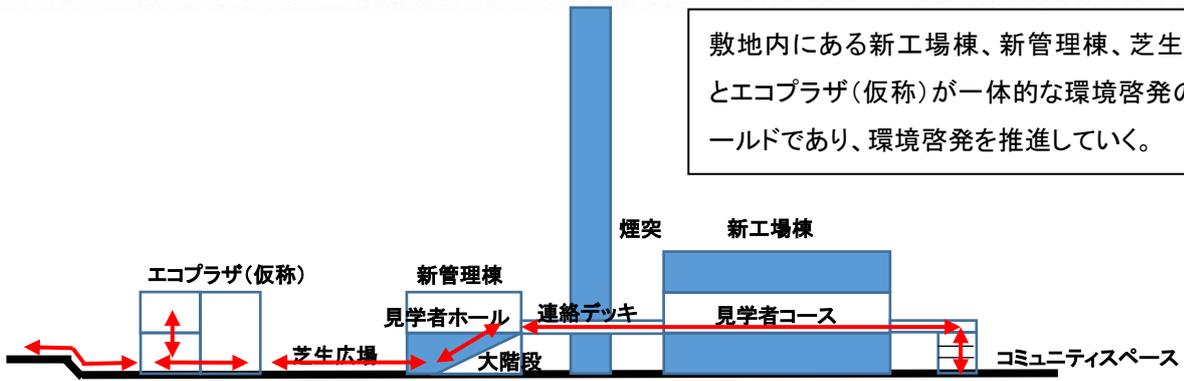
「武蔵野クリーンセンター（以下「クリーンセンター」という。）」は、昭和 59（1984）年の旧工場棟稼働以来、武蔵野市のごみ処理を担ってきた。平成 29（2017）年 4 月には、さらなる技術進化による高度なごみ処理と廃熱エネルギー利用を実現した新工場棟が本稼働している。クリーンセンターの敷地は「ごみ処理施設」として都市計画決定されており、このことは近隣住民の方々の理解を得て、市民生活に欠かせないごみ処理が担保されていることを意味する。そのため、新工場棟では安全・安心なごみ処理が責務であり、さらにごみ処理に対する市民の理解が深まるように、見学者コースでごみ処理を見て学ぶことができる。そしてエコプラザ（仮称）（旧事務所棟と旧プラットホームを減築保全、リユース）は「ごみ処理施設」に存在を残し、市民一人ひとりがごみや環境のトピックを通じて、日常生活と環境問題との多様な接点やつながり・関係性などをより深く考え、学び、行動することにより、SDGs（詳細は 5 頁参照）の達成に貢献する未来に向けた環境啓発施設である（平成 32（2020）年度中開設予定）。

敷地全体が「ごみ処理施設」として都市計画決定



クリーンセンター配置図

敷地内にある新工場棟、新管理棟、芝生広場とエコプラザ（仮称）が一体的な環境啓発のフィールドであり、環境啓発を推進していく。

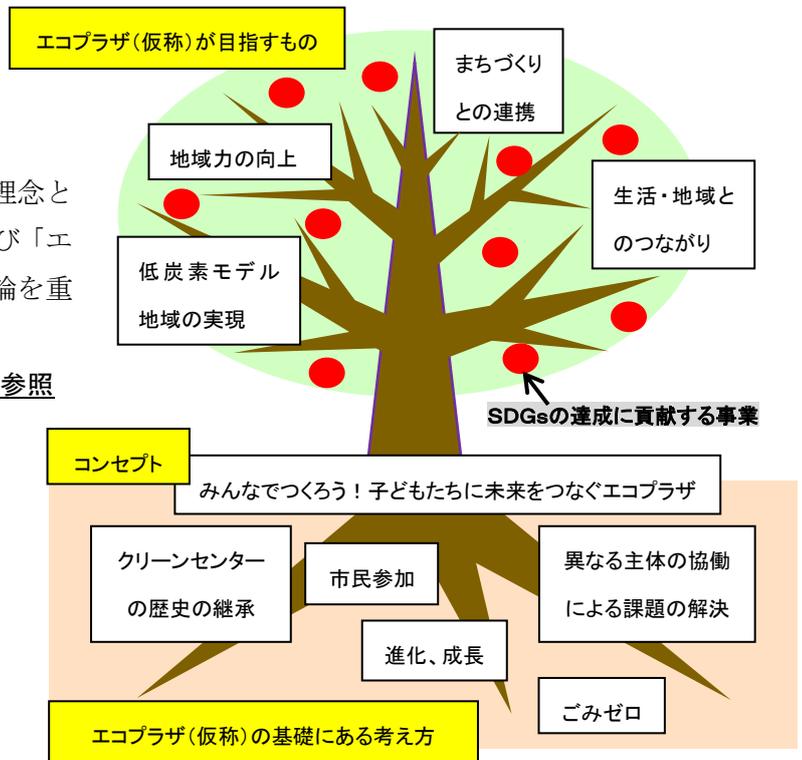


クリーンセンター断面構成図

2 エコプラザ（仮称）の基本理念

市民会議では、エコプラザ（仮称）の基本理念として、「エコプラザ（仮称）の目指すもの」及び「エコプラザ（仮称）のコンセプト」について議論を重ね、以下のとおりまとめた。

* 詳細、用語の定義は「議論のあゆみ編」P19を参照



【エコプラザ（仮称）が目指すもの】

(1) 低炭素モデル地域の実現

平成 27（2015）年にフランス・パリで開催された国連気候変動枠組条約第 21 回締約国会議（COP21）で採択された「パリ協定」における、世界共通の長期目標「産業革命前からの地球の平均気温上昇を 2℃より十分下方に抑えるとともに、1.5℃に抑える努力を追及する」ことに貢献することを目指し、武蔵野市が低炭素モデル地域となるような行動に結びつくよう働きかけていく。

(2) 地域力の向上

エコプラザ（仮称）の活動を出発点として、近隣、団地、学校、コミュニティ、商店街など様々な単位で、みんなが環境のことを考え、行動する地域づくりを広めていく。そして、地域の取り組みをつなぎ、広げて、地域の力をさらにまち全体に広めていく。

(3) まちづくりとの連携

エコプラザ（仮称）の施設は、緑や景観に配慮し、周辺環境と調和した施設とする。同時にバリアフリー化などを進めることにより、周辺地域と一体となって、より良いまちづくりを目指していく。

(4) 生活・地域とのつながり

一人ひとりが地球温暖化をはじめとする様々な環境問題の存在と本質を知る必要がある。そのためにはまず、日々の暮らしや地域での暮らしと環境とのつながりなどを知ることから始めて、それが共感や行動へとつながるよう促していく。

エコプラザ（仮称）では、これらを目指すことで、SDGs（※持続可能な開発目標 17 項目）の達成に貢献する事業を実施する。例えば再生可能エネルギーの普及、省エネルギー化、地球温暖化対策、循環型社会の構築、生物多様性の保全等の分野の活動を通して、持続可能な地域づくりを目指す。

※SDGs（持続可能な開発目標）とは

SDGsとは、平成27（2015）年9月の国連サミットで採択された、誰一人取り残さない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする、以下の17の国際目標のことをいう。

① 貧困をなくそう
② 飢餓をゼロに
③ すべての人に健康と福祉を
④ 質の高い教育をみんなに
⑤ ジェンダー平等を実現しよう
⑥ 安全な水とトイレを世界中に
⑦ エネルギーをみんなに、そしてクリーンに
⑧ 働きがいも経済成長も
⑨ 産業と技術革新の基盤をつくろう
⑩ 人や国の不平等をなくそう
⑪ 住み続けられるまちづくりを
⑫ つくる責任、買う責任
⑬ 気候変動に具体的な対策を
⑭ 海の豊さを守ろう
⑮ 陸の豊かさも守ろう
⑯ 平和と公正をすべての人に
⑰ パートナリシップで目標を達成しよう

【エコプラザ（仮称）のコンセプト】

みんなでつくろう！子どもたちに未来をつなぐエコプラザ
＜コンセプトを表す環境を切り口とした4つのキーワード＞
「共」…すべての人、団体、事業者、行政が、**共**に参加する。
「創」…既にあるものにとらわれず、柔軟に新しい価値を**創**り出す。
「継」…持続可能な環境を子どもたちの未来に引き**継**いでいくため、大人が責任をもつ。
「場」…人、知恵、情報が集い、交流することができる**場**をつくる。

＜エコプラザ（仮称）の基礎にある考え方＞

(1) クリーンセンターの歴史の継承

エコプラザ（仮称）では、旧クリーンセンター建設から新クリーンセンターの更新に至る経緯を詳しく紹介し、これまでの武蔵野市における様々な環境に対する取り組みの歴史、議論とその成果、それに関わった人々の思い、さらに現在・将来の取り組みを共有していく場とする。

(2) 市民参加

エコプラザ（仮称）では、創造的な成果が生まれるよう、市民（狭義の市民のみならず、在勤・

在学する個人、NPO等の団体、民間事業者を含む)の参加によって事業を展開する。

(3) 異なる主体の協働による課題の解決

エコプラザ(仮称)では、市民・行政・民間事業者・NPO等の様々な主体の力を集め、「エコプラザ(仮称)の目指すもの」の実現を図る。

(4) 進化、成長

エコプラザ(仮称)の活動では、今を完成形とは考えず、時代の変化やニーズ、価値観の変化に合わせて人も施設も学び合い、常に育ち続けていく。

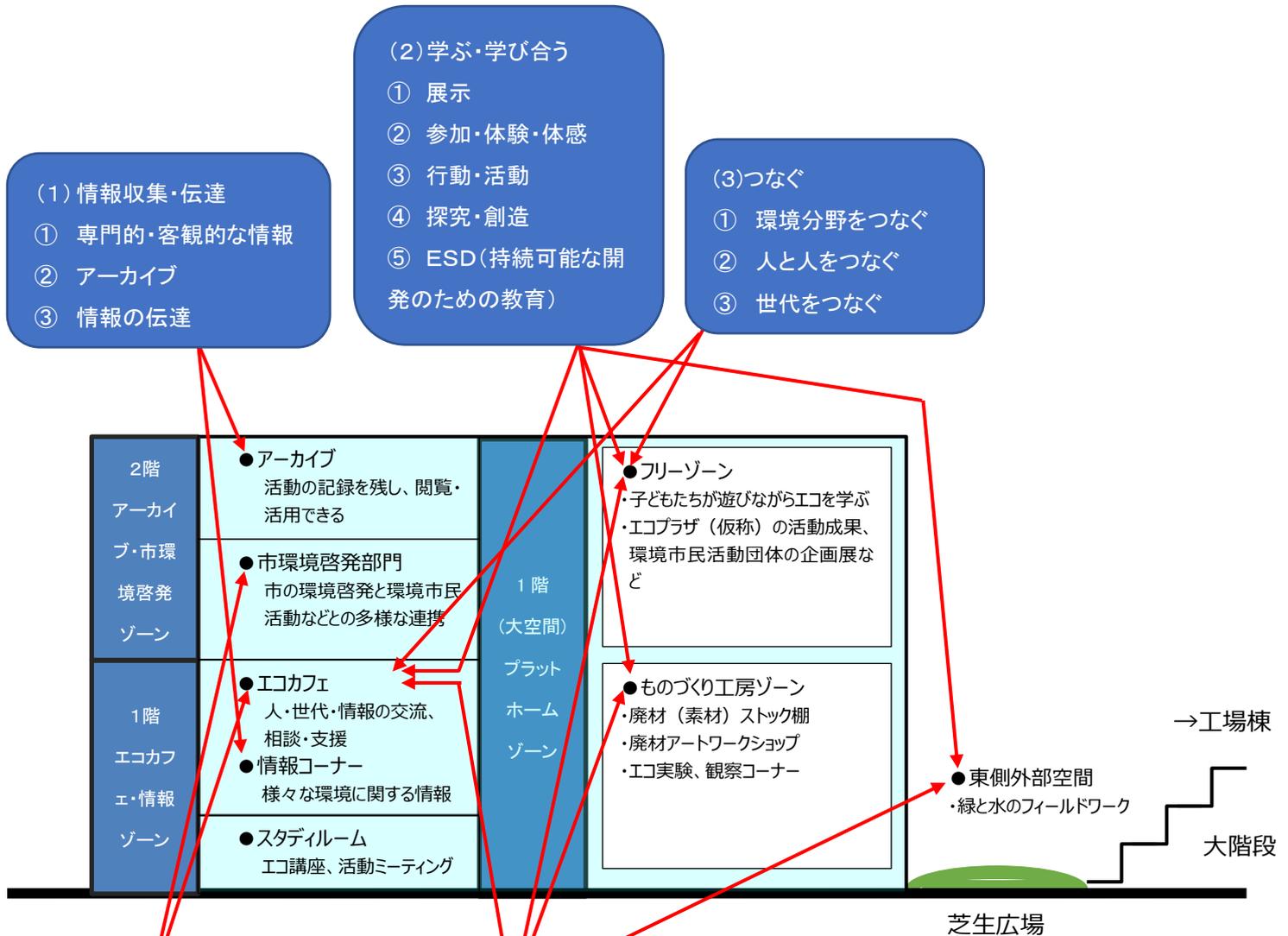
(5) ごみゼロ

エコプラザ(仮称)の原点は、武蔵野市のごみ問題にある。この歴史を忘れず、クリーンセンターと連携して、ごみを出さない社会の仕組みへの転換を目指し、地域、まちを変えていく。

3 エコプラザ（仮称）の機能と各階の配置構成

エコプラザ（仮称）の理念を実行するため、「情報収集・伝達」、「学ぶ・学び合う」、「つなぐ」、「はぐくむ・育てる」、「支える」の各機能と各階の配置構成を示す。

* 詳細、用語の定義は「議論のあゆみ編」P23 を参照



【旧プラットホーム】

旧プラットホームは収集車がごみを運び、ごみをピットに投下する場所で、通常関係者以外立ち入りすることができなかった場所である。その場所をエコプラザ（仮称）として再利用し、環境啓発の場としてよみがえらせるものである。奥行き50m、幅15m、高さ8mの大空間で、あえてプラットホームの設えを残すことから、この空間に入ると、自然にごみ処理の歴史を感じ取ることができる。また、この大空間を利用し、様々な環境啓発のプログラムを通じて、「環境を学ぶ、学び合う」「環境分野、人をつなぐ」「環境への興味・関心をはぐくむ、活動を育てる」ことができ、自ら環境への行動を触発させる。



旧プラットホームの風景

4 エコプラザ（仮称）の機能と空間利用

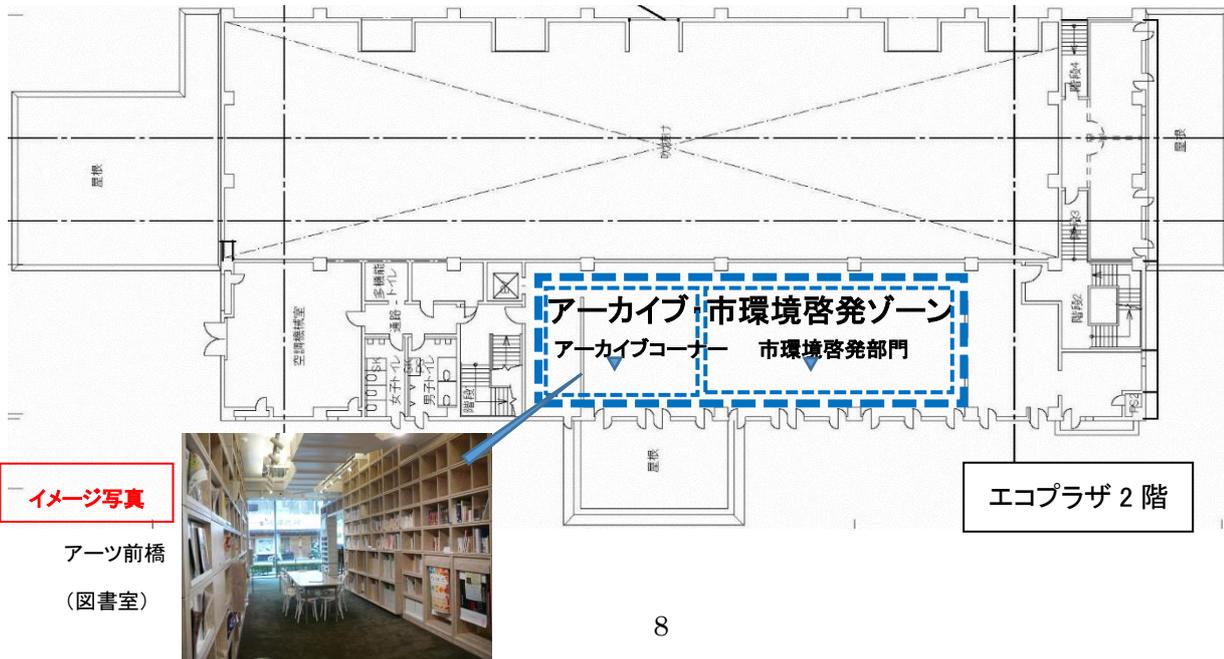
(1) エコプラザ（仮称）1階の機能と空間利用

- ・プラットホームゾーンは、機能面では通常時は、ものづくり工房ゾーンとフリーゾーンに使い分け、イベント等の開催時には全体を使用できるフレキシブルな利用を想定する。
- ・エコカフェ・情報ゾーン（旧事務所棟1階）は、エコカフェと情報コーナーが一体的な一つの空間にあり、他にスタディールーム、運営スペースがある。多目的トイレ、授乳室を完備する。



(2) エコプラザ（仮称）2階の機能と空間利用

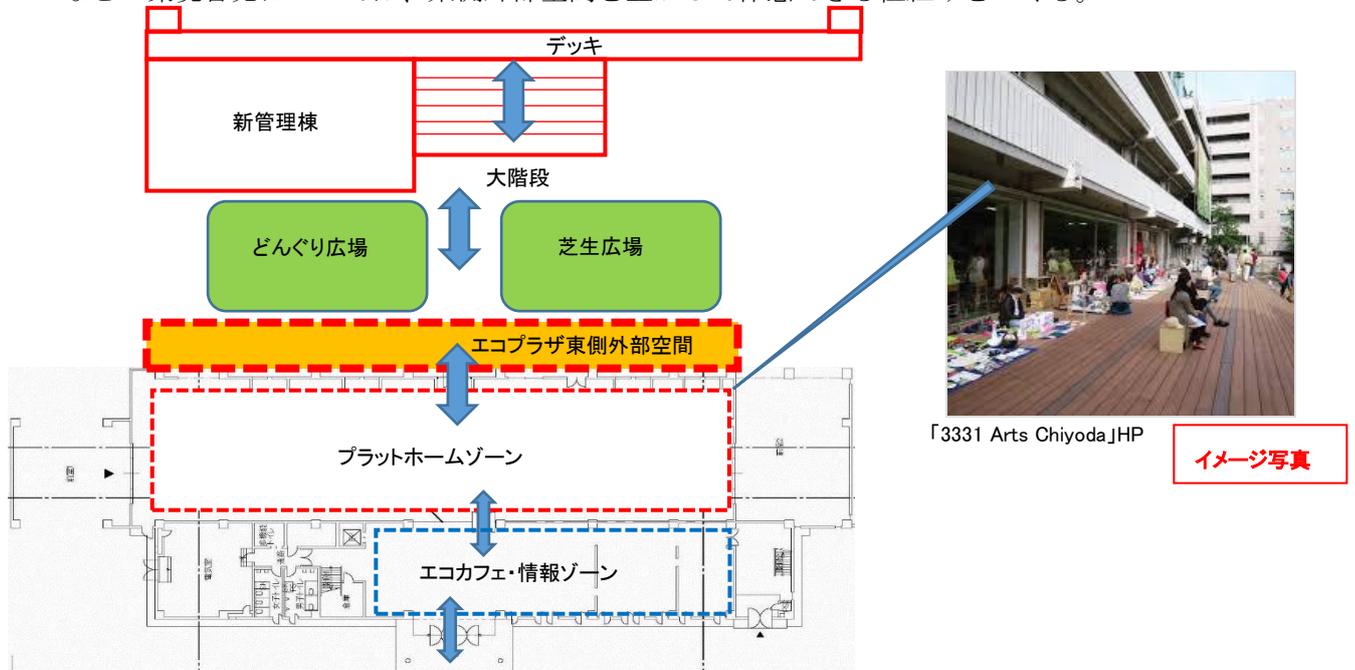
- ・アーカイブ・市環境啓発ゾーン（旧事務所棟2階）はアーカイブコーナーと市環境啓発部門で構成する。



(3) プラットホームゾーンと東側外部空間との関係性

・プラットフォームゾーン東側外部は芝生広場、クリーンセンター大階段・デッキと連続しており、東側外部空間もエコプラザのフィールドとなる。またプラットフォームゾーンと東側外部空間とも連続している。

・東側外部空間では外部デッキを整備し、緑を感じる憩いの場とする。また、緑、水循環、エネルギーなどの環境啓発については、東側外部空間を生かして体感できる仕組みをつくる。



市民会議で提案された各空間でのプログラム例

【ものづくり工房ゾーン】プログラム例

- ・直し方を学ぶ、市民同士教え合う。
(もくもくと作業するのではなく、交流がうまれる仕掛けが必要)
- ・ものづくり工房利用者講習会 (工具の使い方などを学ぶ)
- ・部材 (パーツ) をストックするために、廃材を解体・分別する。
- ・直すのに必要な部材 (パーツ) のストック。・包丁研ぎができる。
- ・廃材の提供 (小学校の図工の授業で活用)

【フリーゾーン】プログラム例

- ・みんなで展示をつくる (子ども、大人、企業、専門家など色々なレベルの展示)
- ・水循環、緑、水と文化 (地図づくり、図鑑づくり、クイズ、スタンプラリー)
- ・もったいないプロジェクト (ごみの展開・分別調査、バイオマス研究・エネルギーづくり、生ごみ処理のレクチャー)
- ・ブース「武蔵野市民は緑が好き!」「地球温暖化を考える!」
- ・大スクリーンで環境映像

【エコカフェ・情報ゾーン】プログラム例

- ・もやもやカフェ/コミュニティカフェ (『1人で悩まないで』例えば、すてたいけどすてられない物などの悩みを他者と共有し、解決の糸口をつかんだり、共有することで新たな活動を生み出す。)
- ・大人 (特に文系) のための環境連続講座 (オープンカレッジ的なもの)
- ・エコッキング、食べ物かえっこ
- ・水と緑の研究会

【エコプラザ東側外部空間】プログラム例

- ・間伐材・森の話を聞ける講座
- ・雑木林、芝生 (雑草) を育てる
- ・レインガーデン、雨水タンク、雨水の見える化
- ・地元野菜直売所、まちなか農家プロジェクト
- ・水と緑のフィールドワーク

5 エコプラザ（仮称）の運営

(1) 管理運営業務の全体像

エコプラザ（仮称）で想定される管理運営業務の全体像については、以下のとおり整理した。

区分	内容	業務例（抜粋）
管理系業務	全体調整	マネジメント、ファシリテート、会議体運営
	危機管理	日常点検、マニュアル整備、情報セキュリティ、避難訓練
	その他	アーカイブ管理、専門性確保、人材育成、情報伝達
	総務	個人情報管理、文書管理、システム管理、検証・評価
	労務	スタッフ登録、出退勤・シフト管理、賃金等支払い
	財務	事業計画・予算、事業報告・決算、予算執行
	建物・設備維持管理	保守点検、修繕、安全対策、警備、清掃
	窓口	受付、コンシェルジュ、入退室管理、来館者数管理
	案内	施設見学対応、展示解説、クリーンセンターとの相互案内
	利用申請・予約	部屋貸し、見学受付、講座等プログラム、出前講座、図書
事業系業務	情報伝達	情報収集、情報発信
	展示	環境配慮技術の解説、制作物掲示、補修等実演、廃材陳列
	参加・体験	イベント、講演会、講座等プログラム、出張イベント、出前
	探究・行動・活動	調べ学習、相談、市民提案事業、ボランティア等養成、勉強会
	連携	地域資源発掘・活用、コーディネート、多世代交流、広域連携

(2) 運営形態

エコプラザ（仮称）の運営については、現時点では、完全に独立した運営を行うのは難しいと考えられる。開設から5年間を目途に、市の直営体制と個別の事業委託と、市民参加を組み合わせた過渡的な運営体制を採用する。その間に、事業の安定化、ノウハウの蓄積、事業に関わる人材の育成等を進め、将来の運営体制のあり方を検討する。運営形態の例については以下のとおり。

年度	運営形態の例	管理系業務				事業系業務
		全体調整 危機管理 その他	総務 労務 財務	建物・設備の 維持管理	窓口 案内 利用申請 ・予約	
2020	開設					
2021	事業安定化	市 ※市がもつ 連携力を用 いる	市 ※市がもつ 経験・スキル を用いる	市 ※一部専門 事業者に委 託	利用者から 顔が見える 運営者	利用者から 顔が見える 運営者
2022	人材育成					
2023	新たな運営					
2024	形態の検討					
2025	新たな運営 形態に移行	全業務を担える運営者 (市独自の新たな運営手法、指定管理者等)				

(3) 運営に携わる人の資質

エコプラザ（仮称）の運営に携わる人には、施設の目的に合った資質が求められる。中でも次の資質は重要である。

① お互いに顔が見える関係の構築

エコプラザ（仮称）においては、利用者と運営者の信頼関係が不可欠である。利用者との信頼関係を築くためには、普段から個性の見える一人の人間として利用者に接し、お互いが顔なじみとなるような関係を築くことができる資質が必要である。

② しっかりと耳を傾けて聴く姿勢

エコプラザ（仮称）の重要な機能として、利用者からの環境問題や環境活動に関する質問、意見、相談に対応することがある。この時に、しっかりと利用者に寄り添い、真摯に耳を傾ける姿勢をもって対応できる資質が必要である。

③ エコプラザ（仮称）の「顔」

上記2項目の資質を表す象徴として、施設の「顔」となる存在がいることが望ましい。運営者一人ひとりが施設の「顔」となる意識をもつとともに、運営を続けていく中で、そのような人材を発掘、育成していくことも必要である。

(4) 評価、検証のあり方

エコプラザ（仮称）のマネジメントとして、事業計画の作成、評価、見直しを継続していく必要がある。

① 事業の評価

一般的に言われる来館者数は、評価の一つの基準となることはあっても、総合的評価として、必ずしも評価基準となるものではない。そこで次のような評価の手法が考えられる。

- ・活動の結果から生じる市民生活への波及効果を定量的に把握し、価値判断を加える「ソーシャルインパクト評価」により、エコプラザ（仮称）独自の効果を測定する。
- ・様々な事業を実施した結果、SDGs（＝持続可能な開発目標 17 項目）にどのぐらい貢献し、より良い社会になったかが見える化できると良い。エコプラザ（仮称）が目指すものに対し、どれだけ効果があったかをSDGsへの貢献度で評価する。
- ・学習過程で生徒が作成した様々なものを保管するポートフォリオ（ファイルフォルダに集められた資料や情報）を使った評価も考えられる。個人の変容を質的、総合的に評価するポートフォリオは、個人が変容し、行動につながったことまで評価することができる。

② 事業の検証

エコプラザ（仮称）では、運営について協議する運営協議会（仮称）を設置し、事業や施設の総合的な評価を行い、年度ごとに報告する。検証結果は翌年度以降の事業計画に生かし、マネジメントに生かす。

6 今後の進め方

本市民会議では、エコプラザ（仮称）のあり方について、多岐にわたる議論を重ね、その結果を本書にまとめた。本書を踏まえて市が策定する「市の基本的な考え方」に対し、多くの意見をいただくことで、より良い施設となるよう期待したい。今後は、平成 30（2018）年度内に、施設の設計方針や管理運営方針などが順次策定されていくが、市民会議では、これらについても引き続き意見を述べていく。

7 市民会議検討スケジュール

回	月日	議題
第1回	平成 29 (2017)年 2月 20日	<ul style="list-style-type: none"> ・エコプラザ(仮称)検討の変遷について ・第四期新武蔵野クリーンセンター(仮称)施設・周辺整備協議会「エコプラザ(仮称)事業のあり方中間まとめ」について ・意見交換
第2回	4月 27日	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に関する講義「環境デザインの視点」「環境教育からESDへ」 ・意見交換
第3回	5月 31日	<ul style="list-style-type: none"> ・活用施設の見学会(旧クリーンセンター事務所棟・プラットホーム) ・意見交換「多様な環境活動・啓発について」 ・平成 28 年度エコプラザ(仮称)整備に向けたワークショップ等の実施結果について
第4回	7月 13日	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの議論の振り返り ・環境学習・啓発施設の類型について ・運営のあり方について
第5回	8月 3日	<ul style="list-style-type: none"> ・豊田市視察
第6回	9月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ・視察報告 ・運営のあり方について
第7回	10月 2日	<ul style="list-style-type: none"> ・運営のあり方について
第8回	11月 7日	<ul style="list-style-type: none"> ・エコプラザ(仮称)のコンセプトについて
第9回	12月 7日	<ul style="list-style-type: none"> ・エコプラザ(仮称)のコンセプトについて ～武蔵野市らしさとエコプラザ(仮称)で大切にしたいこと～
第10回	平成 30 (2018)年 2月 21日	<ul style="list-style-type: none"> ・エコプラザ(仮称)の機能について ～委員の活動報告を事例に～
第11回	4月 24日	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの議論の振り返り ・エコプラザ(仮称)の機能、空間活用について
第12回	5月 31日	<ul style="list-style-type: none"> ・エコプラザ(仮称)の機能、空間活用について ・環境市民団体へのアンケート調査項目について
第13回	6月 25日	<ul style="list-style-type: none"> ・エコプラザ(仮称)の機能、空間活用について ・エコプラザ(仮称)の運営について
第14回	7月 12日	<ul style="list-style-type: none"> ・運営、評価・検証方法について
第15回	8月 1日	<ul style="list-style-type: none"> ・エコプラザ(仮称)の空間利用の考え方について ・武蔵野市エコプラザ(仮称)検討市民会議検討のまとめ(案)について
第16回	8月 23日	<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵野市エコプラザ(仮称)検討市民会議検討のまとめ(案)について

8 武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議設置要綱

（設置）

第1条 武蔵野市長期計画条例（平成23年12月武蔵野市条例第28号）第2条第1項の規定により策定する武蔵野市長期計画及び武蔵野市環境基本条例（平成11年3月武蔵野市条例第9号）第5条第1項の規定により策定する武蔵野市環境基本計画に基づき設置する環境啓発の拠点となる施設（以下「武蔵野市エコプラザ（仮称）」という。）の具体的な在り方について検討を行うため、武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議（以下「市民会議」という。）を設置する。

（所管事項）

第2条 市民会議は、次に掲げる事項について協議及び検討を行い、その結果を市長に報告する。

- (1) 武蔵野市エコプラザ（仮称）の在り方に関する事項
- (2) 前号に掲げるもののほか、市長が必要と認める事項

（構成）

第3条 市民会議は、次に掲げる委員15人以内で組織し、市長が委嘱し、又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 教育関係者
- (3) 事業者を代表する者
- (4) 市民団体等に属する者
- (5) 公募による者
- (6) 行政関係者

（委員長及び副委員長）

第4条 市民会議に委員長及び副委員長各1人を置く。

- 2 委員長は委員の互選により選出し、副委員長は委員の中から委員長が指名する。
- 3 委員長は、会務を総括し、市民会議を代表する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（委員の任期）

第5条 委員の任期は、委嘱又は任命の日から平成31年3月31日までとする。

（会議）

第6条 市民会議の会議は、必要に応じて委員長が招集する。

- 2 市民会議の会議は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。
- 3 市民会議が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は資料の提出を求めることができる。

（報酬）

第7条 委員の報酬は、武蔵野市非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する条例（昭和36年2月武蔵野市条例第7号）第5条第1項の規定により、市長が別に定める。

（庶務）

第8条 市民会議の庶務は、環境部環境政策課が行う。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、市民会議について必要な事項は、市長が別に定める。

付 則

- 1 この要綱は、平成28年12月21日から施行する。
- 2 この要綱は、平成31年3月31日限り、その効力を失う。

9 武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議委員名簿

（敬称略）

	氏名	所属・役職等		備考
学識	こざわ きみこ 小澤 紀美子	東京学芸大学名誉教授、第四期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会 会長		建築・まちづくり学、環境教育学
	すずき まさかず 鈴木 雅和	筑波大学芸術系名誉教授、第10期環境市民会議副委員長		環境農学、環境デザイン学
教育	おおさわ たけひろ 大沢 武弘	武蔵野市立小中学校校長会		本宿小学校校長
事業者	ながしま つよし 長島 剛	多摩信用金庫 価値創造事業部長		平成30年2月20日まで
	さくま ゆういち 佐久間 雄一	多摩信用金庫 価値創造事業本部 地域連携支援部まちづくりグループ 主任調査役		平成30年2月21日から
	しんだて としや 新立 利也	(株)イトーヨーカ堂 営業本部総括マネジャー		包括連携協定
市民団体等	たなか みのる 田中 稔	特定非営利活動法人 太陽光発電所ネットワーク		環境政策課
	しが かずお 志賀 和男	クリーンむさしのを推進する会 会長		ごみ総合対策課
	むらい ひさお 村井 寿夫	第四期新武蔵野クリーンセンター （仮称）施設・周辺整備協議会	吉祥寺北町五丁目町会	クリーンセンター
	しおざわ せいいちろう 塩澤 誠一郎		緑町三丁目町会	
	きむら あや 木村 文		緑町二丁目三番地域住民協議会	
	おざわ さとみ 小澤 里美	水の学校 サポーター		下水道課
	すずき けいこ 鈴木 圭子	一般社団法人 グリーンボード		緑のまち推進課
公募	かみよしかわ こうど 上吉川 航人	桜堤在住		
	おおたに さちこ 大谷 紗知子	吉祥寺北町在住		
行政	こおり まもる 郡 護	武蔵野市 環境部長		平成30年3月31日まで
	きむら ひろし 木村 浩	武蔵野市 環境部長		平成30年4月1日から

武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議
検討のまとめ 議論のあゆみ編

「議論のあゆみ編」は、16回にわたる市民会議において、議論の過程のキーワードや資料をまとめたものである。

本編は、これらのキーワードや資料をもとに、簡潔に、わかりやすくまとめたものである。

本編を読み、さらに言葉の意味や議論の過程を知ることができるように、「議論のあゆみ編」を活用するものである。

1 エコプラザ（仮称）の基本理念

(1) エコプラザ（仮称）が目指すもの

① 低炭素モデル地域の実現

平成 27 (2015) 年にフランス・パリで開催された国連気候変動枠組条約第 21 回締約国会議（COP21）で採択された「パリ協定」における、世界共通の長期目標「産業革命前からの地球の平均気温上昇を 2℃より十分下方に抑えるとともに、1.5℃に抑える努力を追及する」ことに貢献することを目指し、武蔵野市が低炭素モデル地域となるような行動に結びつくよう働きかけていく。

② 地域力の向上

エコプラザ（仮称）の活動を出発点として、近隣、団地、学校、コミュニティ、商店街など様々な単位で、みんなが環境のことを考え、行動する地域づくりを広めていく。そして、地域の取り組みをつなぎ、広げて、地域の力をさらにまち全体に広めていく。

③ まちづくりとの連携

エコプラザ（仮称）の施設は、緑や景観に配慮し、周辺環境と調和した施設とする。同時にバリアフリー化などを進めることにより、周辺地域と一体となって、より良いまちづくりを目指していく。

④ 生活・地域とのつながり

一人ひとりが地球温暖化をはじめとする様々な環境問題の存在と本質を知る必要がある。そのためにはまず、日々の暮らしや地域での暮らしと環境とのつながりなどを知ることから始めて、それが共感や行動へとつながるよう促していく。

エコプラザ（仮称）では、これらを目指すことで、SDGs^{*}（持続可能な開発目標 17 項目）の達成に貢献する事業を実施する。例えば再生可能エネルギーの普及、省エネルギー化、地球温暖化対策、循環型社会の構築、生物多様性の保全等の分野の活動を通して、持続可能な地域づくりを目指す。

※SDGsとは、平成 27 (2015) 年 9 月の国連サミットで採択された、誰一人取り残さない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030 年を年限とする 17 の国際目標である。（詳細次頁参照）

※環境省のホームページでは、17 のSDGsの目標のうち、環境に関連している目標として、次の 12 項目を挙げている。

食料安全保障、健康、質の高い教育、水・衛生、エネルギー、持続可能な経済成長、工業化・イノベーション、都市、持続可能な消費と生産、気候変動、海洋、陸域生態系・森林管理・砂漠化への対処・生物多様性
--

SDGs 17の国際目標

① 貧困をなくそう	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
② 飢餓をゼロに	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
③ すべての人に健康と福祉を	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
④ 質の高い教育をみんなに	すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
⑤ ジェンダー平等を実現しよう	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う
⑥ 安全な水とトイレを世界中に	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
⑦ エルギーをみんなにそしてクリーンに	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
⑧ 働きがいも経済成長も	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する
⑨ 産業と技術革新の基盤をつくろう	強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
⑩ 人や国の不平等をなくそう	各国内及び各国間の不平等を是正する
⑪ 住み続けられるまちづくりを	包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する
⑫ つかう責任・つくる責任	持続可能な生産消費形態を確保する
⑬ 気候変動に具体的対策を	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。
⑭ 海の豊かさをまもろう	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
⑮ 陸の豊かさをもまもろう	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
⑯ 平和と公正をすべての人に	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
⑰ パートナーシップで目標を達成しよう	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

5つの特徴

① 普遍性	先進国を含めて、全ての国が行動
② 包摂性	人間の安全保障の理念を反映し「誰一人取り残さない」
③ 参画型	すべてのステークホルダーが役割を
④ 統合性	社会・経済・環境に統合的に取り組む
⑤ 透明性	定期的にフォローアップ

出典：「持続可能な開発目標（SDGs）について」（平成30年5月外務省資料）及び「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」（外務省仮訳）

(2) エコプラザ（仮称）のコンセプト

「みんなでつくろう！子どもたちに未来をつなぐエコプラザ」

<コンセプトを説明する環境を切り口とした4つのキーワード>

「共」…すべての人、団体、事業者、行政が、**共**に参加する。

「創」…既にあるものにとらわれず、柔軟に新しい価値を**創**り出す。

「継」…持続可能な環境を子どもたちの未来に引き**継**いでいくため、大人が責任をもつ。

「場」…人、知恵、情報が集い、交流することができる**場**をつくる。

<エコプラザ（仮称）の基礎にある考え方>

① クリーンセンターの歴史の継承

エコプラザ（仮称）では、旧クリーンセンター建設から新クリーンセンターの更新に至る経緯を詳らかに紹介し、これまでの武蔵野市における様々な環境に対する取り組みの歴史、議論とその成果、それに関わった人々の思い、さらに現在・将来の取り組みを共有していく場とする。

<武蔵野市の環境の歴史>

武蔵野市の歴史においては、環境に対する代表的な取り組みとして、緑の保全・育成と、ごみ減量・リサイクルが重要である。

緑については、昭和 48（1974）年に「武蔵野市民緑の憲章」を定め、「ふるき武蔵野の緑をまもり、今日ある緑をそだて、新しい武蔵野の緑をつくりだしていく」決意を示した。この憲章の意志を受け継ぎ、計画的に緑の保全・育成の取り組みが行われている。

ごみ減量・リサイクルについては、昭和 45（1970）年に三鷹市内のごみ処理場での武蔵野市のごみ処理が問題となり、その後、地域住民による武蔵野市のごみ搬入阻止にまで至った。この状況を受けて、武蔵野市は市内にごみ処理場を設置することになった。また昭和 53（1978）年 1 月に古紙、9 月に空き缶類・空きびん類の分別を開始した。

市内へのごみ処理場設置に向けて、徹底した市民参加による議論を重ねた結果、昭和 59（1984）年に旧クリーンセンターが稼働を開始した。そして、旧クリーンセンターの建て替えの時期を迎え、改めて市民参加によって市内へのごみ処理場の設置を議論した。その結果、新しいクリーンセンターが平成 29 年に稼働を開始した。建築物としてまだ使用に耐えうる旧クリーンセンターは、エコプラザ（仮称）として一部を残し、リノベーションして使用することにより、ごみを出さない、資源を大切に考える考え方とその検討の歴史を伝えることになる。

② 市民参加

エコプラザ（仮称）では、創造的な成果が生まれるよう、市民（狭義の市民のみならず、在勤・在学する個人、NPO等の団体、民間事業者を含む）の参加によって事業を展開する。

<武蔵野市の市民参加>

昭和46（1971）年策定の「武蔵野市長期計画（第一次）」において行われた、市民参加による計画策定＝武蔵野市方式以来、対話と交流を通して各種計画が策定され、施策が実施されてきた。この考え方は、新・旧クリーンセンター建設においても同様であり、今後も変わらない方向性である。

③ 異なる主体の協働による課題の解決

エコプラザ（仮称）では、市民・行政・民間事業者・NPO等の様々な主体の力を集め課題を解決するコレクティブインパクトの考え方を基に「エコプラザ（仮称）の目指すもの」の実現を図る。

<コレクティブインパクト>

コレクティブインパクトとは、市民、行政、民間事業者、NPO等が、異なる立場を超えて、互いに強みやノウハウを持ち寄ることで、社会の課題解決を図ることをいう。

また、コレクティブインパクトの実現に必要な要素には、次の5項目がある。

- ① **共通の計画**…課題や課題解決の手法に関する方向性を参加者で共有すること。
- ② **評価システムの共有**…取組全体と個々の取組を評価するシステムを参加者で共有すること。
- ③ **活動の相互補完**…参加者が行動を同じくするのではなく、個々の行動計画を実行し、得意分野を生かすことで補完しあうこと。
- ④ **継続的なコミュニケーション**…参加者間で信頼を構築するために継続的なコミュニケーションを図ること。
- ⑤ **活動を支える組織**…活動全体を支える組織があること。

出典：和光市広沢複合施設整備・運営事業コレクティブインパクト・リスト作成要領（埼玉県和光市）

④ 進化、成長

エコプラザ（仮称）の活動では、今を完成形とせずに進化し続けるメタボリズムの考え方を踏まえて、時代の変化やニーズ、価値観の変化に合わせて人も施設も学び合い、常に育ち続けていく。

⑤ ごみゼロ

エコプラザ（仮称）の原点は、武蔵野市のごみ問題にある。この歴史を忘れず、クリーンセンターと連携して、ごみを出さない社会の仕組みへの転換を目指し、地域、まちを変えていく。

2 エコプラザ（仮称）のもつ機能

(1) 取り扱う環境分野

エコプラザ（仮称）は、地球温暖化、ごみ・リサイクル、緑、水循環、資源循環・エネルギー、生物多様性など、環境全般を視野に入れて事業を実施する場とする。

(2) 利用対象者

エコプラザ（仮称）が想定する利用者は、すべての個人、NPO等の団体、事業者であり、あらゆる年齢層を対象とする。

とくに子ども同士、親子連れなど、子どもが来やすい場、何度も来たくなる場にしていく。また、環境に高い関心のある人だけではなく、環境について行動、学習したいがきっかけがつかめない人、環境への関心がまだ低い人などが、気軽に来ることができる場にする。

(3) 機能

① 情報収集・伝達

ア 専門的・客観的な情報

個人レベルでは、大量に流通する環境情報の中から、最新で客観性のある情報を見分けることは難しい。エコプラザ（仮称）は、最新の専門的で正確な情報が得られる場にする。

イ アーカイブ

エコプラザ（仮称）では、多様な事業（イベント、展示、講座等）が展開していく。それらの事業の結果のほか、企画、運営、広報、人脈等の情報をアーカイブ化して保管する。アーカイブは公開し、新たに事業を実施する際に、利用できるようにする。

ウ 情報の伝達

一個人、一団体では、外部に情報を伝える手段やノウハウがまだ少ない。エコプラザ（仮称）自体が効果的な情報伝達を行うとともに、情報の伝え方について相談でき、ノウハウが得られる場にする。

② 学ぶ・学び合う

ア 展示

エコプラザ（仮称）に偶然立ち寄った人でも、その人の目が向き、環境について興味、関心、疑問、好奇心を持てる、環境への入口となるような展示が常に必要である。展示は、文字情報だけではなく、数値等の見える化、立体的な展示による視覚への訴え、生態系の再現などを行うことで、エコプラザ（仮称）を、人の実感、共感につながるような展示に出会える場にする。

イ 参加・体験・体感

環境に対する考え方を自分のものとするためには、自ら能動的に参加する態度、自分の身体による体験が重要である。エコプラザ（仮称）は、進んで参加したくなる魅力的なプログラム、自らの身体で感じることでできるプログラム、設備をもつ場にする。

ウ 行動・活動

SDGsを実現していくためには、一人ひとり（個人、NPO、事業者等）が行動し、自分の考えを表現していく必要がある。エコプラザ（仮称）は、一人ひとりが学び合い、その思いを行動・地域活動につなげていく場である。また、エコプラザ（仮称）という場所に加えて、地域にも出て、その場づくりを行う。

エ 探究・創造

一人ひとりが環境問題を考え、その答えだけを求めるのではなく、考える過程を楽しむ探究心を育てていく。エコプラザ（仮称）は、このような探究の場である。

また、環境に対する柔軟な考え方は、新しい価値を生み出すことができる。例えば、古い粗大ごみは、その古さを活かし、用途を変えて、新しい価値を持つ品物となり得る。生ごみから作った堆肥は、作物に付加価値を与えることができ。エコプラザ（仮称）は、このような新しい価値を生み出す場にする。

オ ESD（持続可能な開発のための教育）

エコプラザ（仮称）のもつ機能は、ESDで求められている「持続可能な社会で大切なこと
の理解」と「問題解決に必要な能力・態度を身に付ける」ことに立脚したものにする。

< ESD (Education for Sustainable Development) >

ESDとは、「一人一人が世界の人々や将来世代、また、環境との関係性の中で生きていることを認識し、持続可能な社会の実現に向けて行動を変革するための教育のこと」をいいます。

具体的には、単なる知識の習得や活動の実践にとどまらず、日々の取組の中に、持続可能な社会の構築に向けた概念を取り入れ、問題解決に必要な能力・態度を身に付けるための工夫を継続していくことが求められています。

A. 日々の取組をESDの視点でとらえる（持続可能な社会で大切なことを理解する）

【取組の6つの視点】

課題の構造に関する概念：①多様性、②相互性、③有限性

課題解決に向けた行動が備えるべき要素に関する概念：④公平性、⑤連携性、⑥責任性

B. 日々の取組をESDの視点で工夫する（問題解決に必要な能力・態度を身に付ける）

【取組の7つの工夫】

①進んで参加する態度、②つながりを尊重する態度、③他者と協力する態度、④コミュニケーションを行う力、⑤多面的、⑥総合的に考える力、⑦未来像を予測して計画を立てる力・批判的に考える力

※出典：環境省ホームページ「ESDって何だろう？」（一部改変）

③ つなぐ

ア 環境分野をつなぐ

環境の問題は、一つの分野を深く知り、考えていくと、他の分野との関係に気づき、関心の幅が広がってくる。その一方、他の分野で活動する人、団体等との関わりは決して多くない。分野をこえて連携することができれば、新しい活動が生まれる可能性が大きくなる。エコプラザ（仮称）は、環境の分野をこえて、情報、活動がつながる場にする。

イ 人と人をつなぐ

環境に関する活動は、一人、一団体だけでなく、様々な人や団体と対話することにより、その幅を広げることができる。エコプラザ（仮称）は、人や団体等が自由に集まり、出会い、交流することができる場であり、新たなつながりが得られる場にする。

ウ 世代をつなぐ

環境にやさしい生活を実現するためには、伝統的な知恵が大切であり、次の世代につないでいく必要がある。また、大人が子どもの感性、発想から教わることも多い。エコプラザ（仮称）は、世代間交流ができる場である。

④ はぐくむ・育てる

ア 環境への興味・関心をはぐくむ

環境にやさしい地域をつくっていくためには、まず一人ひとりが環境に興味をもつことが第一歩になる。そして、その第一歩は子どものときに踏み出してほしい。エコプラザ（仮称）は、お腹に子どもがいる母親、小さな親子連れ、子ども同士などが、最初は環境に関心がなくても来たくなる、気軽に來ることができる、集まることができる場にする。そして小さな環境への興味をより大きく、幅広く育てていく場にする。

イ 活動を育てる

一人ひとりが環境問題を知り、知識を深めていくことは大変重要であるが、それを具体的な活動につなげていくことも重要である。活動というかたちにするためには、環境に関する知識とともに、活動の立ち上げ、継続に関するノウハウが必要になる。エコプラザ（仮称）は、地域における環境活動の担い手を育てる場にする。

⑤ 支える

ア 相談

環境のことを考えると、「これはなぜなのか」、「何かおかしいのでは」、「何とかしたい」、「何かしたいがどうしたらよいのか分からない」といった「モヤモヤ」した気持ちになることがある。この気持ちを誰かに話したい、誰かに受け止めてもらいたい、誰かにアドバイスしてもらいたい。エコプラザ（仮称）は、こういった「モヤモヤ」した気持ちを表現でき、相談でき、次のステップにつなげるきっかけとなる場にする。

イ 支援

環境活動に取り組むためには、活動場所、資金、広報活動など、さまざまな課題が生まれてくる。エコプラザ（仮称）は、このような課題を解決するために相談ができ、具体的な支援制度をコーディネートするなど、地域の環境活動に対する支援を行う場にする。

3 エコプラザ（仮称）の空間利用

(1) 空間利用の検討について

エコプラザ（仮称）の空間利用については、市民会議において各委員が3つのグループに分かれ、グループワーク形式でアイデアを出し合った。空間利用の内容については、結論を示すのではなく、各グループで出された意見を以下に示すかたちとする。

※ 資料編5～7機能・空間活用グループワークまとめを参照

(2) 空間利用の基本的な考え方

① 武蔵野クリーンセンターの歴史を伝える

旧クリーンセンターには、武蔵野市のごみ問題の歴史、武蔵野市の市民参加の歴史が詰まっている。この歴史を抽象的な理念として残すだけではなく、エコプラザ（仮称）の施設という「形」で残すことで、未来に環境の大切さを伝えていく。

② プラットホーム空間の活用

プラットホームは、旧クリーンセンターのごみ処理の現場をそのまま残す、エコプラザ（仮称）にとって重要な空間である。また、建物としてみても、幅54m×奥行15m×高さ8mという市内でも稀な大空間である。この大空間を活用して、エコプラザ（仮称）の個性と機能を生かす。

③ 対話がすすむ仕掛けづくり

エコプラザ（仮称）では、様々な人が交流し、そこから対話が生まれ、環境行動につながっていく。このため、エコプラザ（仮称）は、話題、設備、イベントなど人が集い、対話がすすむような仕掛けがある空間にする。

④ 自由な用途に使える

エコという考え方は、クッキング、学習など多様な活動とつなげることができる。エコプラザ（仮称）は、エコを懐広くとらえて、用途を限定しすぎない、自由に使える空間にする。

(3) 具体的な空間利用のアイデア

「(2) 空間利用の基本的な考え方」を踏まえ、具体的な空間利用について、グループワークで議論した。エコプラザ（仮称）に市民が訪れる仕掛けも含め、様々なアイデアを出したものである。その上で、環境行動につながる空間利用、プログラムへと結びつける第一のステップとなった。

① プラットホームの利用

ア 高さを利用する

- ダイナミックな展示、高さのある立体的な展示物
- 移動式クレーンを設置し、天井に吊るす、イベントで使った物を空中に収納
- 参加型で大型の展示
- ハンモック

イ 広さを利用する

○イベントスペース	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント（コンサート、寝泊りイベント、キャンプ、保育園・幼稚園の発表会、大きな巻物＝ビッグドロー） ・スポーツ（フットサル、カーリング、アーチェリー） ・趣味（ドッグラン、書道、紙飛行機、ヨガ）
○スクリーン・音響設備	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックビューイング
○展示	<ul style="list-style-type: none"> ・動く展示 ・環境団体のPRパネル、イベント活動紹介 ・水やエネルギー循環を表す展示
○発電体験	<ul style="list-style-type: none"> ・手回し体験、自転車発電、足踏み発電
○ものづくりワーキングスペース	<ul style="list-style-type: none"> ・工房、機械、道具、道具の電源 ・日替わりワークショップ ・イベントワークショップ（週替わり、月替わり、テーマ別）
○アーティストインレジデンス	<ul style="list-style-type: none"> ・製作工程を展示しながらギャラリーとして見せる

ウ 壁面を利用する

○投入口にクライミングウォール	<ul style="list-style-type: none"> ・ボルダリング
○素材のストック棚	<ul style="list-style-type: none"> ・廃材を素材へ活用 ・美しくストックする、素材を分類、色分け、展示して見せる
○ストックヤード	<ul style="list-style-type: none"> ・ボタン、ハギレ、リボン、ビーズ、おもちゃのかえっこ
○プロジェクションマッピング	<ul style="list-style-type: none"> ・壁面の旧ピット投入口に上映

エ 柔軟性・可動性をもたせる

○可動式芝生で子どもが遊べる、ハイハイできる
○たたんで収納できる可動式観客席
○レイアウトを動く家具で仕切り、常設スペースとイベントスペースに使える軽いレイアウト

オ 旧クリーンセンターの歴史を生かす

○そのままの状態でもレトロ風の雰囲気を生かす
○古さ、伝統、重み、頑丈さを大事にする

② 旧事務所棟の利用

ア 情報を得る・発信する

○図書スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・専門書、マニアックな写真集を揃える ・本を読める場所、靴を脱いで子どもと一緒に本を読める場所
○アーカイブ	<ul style="list-style-type: none"> ・エコプラザ（仮称）での活動記録

	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の資料
○情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・市民団体の展示 ・コピー、印刷、製本ができる ・エコボ（譲りたいもの、譲ってほしいものを掲示） ・多摩産材でウッドスタート ・カーボンマイナスモデル住宅、マンションで可能な高断熱化

イ 相談ができる

<ul style="list-style-type: none"> ○聴く耳をもつ人と相談できる ○人が集い、話し合い、相談できる ○もやもやした気持ちを共有し、話し合い、解決できる ○キッチンを併設し、お茶を飲みながら話せる、相談できる
--

ウ 交流が生まれる

<ul style="list-style-type: none"> ○エコカフェで人と人の交流、世代間の交流 ○授乳スペース、託児スペースを設けて親子が来やすい場に ○キッチンを設置して、みんなで食事、エコクッキング ○ちょっとお茶が飲めるカフェ
--

エ 体験・学習ができる

○ものづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ミシンの貸出、3Dプリンタ ・ものづくりイベント
○温室（風除け室）	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングマシン ・テラリウム、アクアリウム
○実験・観察	<ul style="list-style-type: none"> ・顕微鏡で温室の植物を観察

オ 起業支援

<ul style="list-style-type: none"> ○1 day キッチン、1 day サロン ○チャレンジショップ

カ 施設の管理

<ul style="list-style-type: none"> ○受付 ○スタッフルーム、行政スペース ○ストックヤード、バックヤード ○余白の空間

③ 屋外・周辺の利用

ア 屋外全体

○新しいクリーンセンターと合った外観（ルーバー）で、つながりをもたせる。
○外観にイメージカラーを使う
○入口（西側）から芝生広場をつなぐ「緑の軸」を建物内に通す
○人を引き込むデザインと仕掛けづくり

イ 新しいクリーンセンター側（東側）屋外

○入口	・入ってみたいくなる、目立つ入口へのアプローチ ・入口（東西）に大きなひさし
○デッキ （ウッドデッキ）	・お茶が飲める場所 ・アウトドアキッチン、ピザ窯 ・つる性植物、縁側、風除け、パーゴラ ・廃材を使った建具 ・太陽光発電（壁面または地上で少し角度をつける）、太陽光パネルの説明 ・ソーラーシェアリング
○プロジェクションマッピング	・芝生広場側から観る

ウ 広場

○芝生広場	・ラボックのバラなど、いろいろな植栽、 ・芝生広場とエコプラザ（仮称）のつながりをもたせる
○どんぐり広場、雑木林	・どんぐり拾いができる ・間伐材を薪にしてピザ窯、アウトドアキッチン

エ 周辺設備

○ラボックの風車の復活
○透明の雨樋で水力発電、雨水タンク
○雨水を貯めてレインガーデン、水生植物
○太陽光パネルの角度、方向を変えて発電量の変化を実験できる
○災害用トイレ
○動物を飼う、植物を育てる（ハーブ畑）
○中高生の利用に対応する駐輪スペースの確保
○周辺施設（市役所、テニスコート、野球場等）の利用者が訪れやすい動線の確保
○運動広場との間に高垣、雑木林をつくる
○椿の下枝を切って道路からの見通しを確保する

4 エコプラザ（仮称）の運営形態

(1) 運営形態の検討について

エコプラザ（仮称）の運営形態については、市民会議において各委員が3つのグループに分かれ、グループワーク形式でアイデアを出し合った。空間利用と同様に、運営形態については、結論を示すのではなく、各グループで出された意見を以下(2)に示すかたちとする。

グループワークで議論した、「4 エコプラザ（仮称）の空間利用」の具体的なアイデアを踏まえて、再度グループワークを行い、環境行動につなげるプログラムや空間利用を導き出し、運営形態のイメージ化を図った。

(2) 運営形態のイメージ

環境テーマ	伝えたいこと(例)	伝えるためのプログラム(例)	主な利用空間	顔が見える運営に必要な要素(例)
全般	全てのプログラムを武蔵野らしくする。	作戦会議	エコカフェ スタディールーム	アート展開とプロセスデザイン デザインプロ集団
全体	広い視野で”ワケ”を知る テーマの組み合わせ 気づき、つながり、広がり、循環 驚きと”なぜ”という疑問	体験、連続講座、フィールドワーク ワークショップ 高校生などに向けた科学的な学び、実験	エコカフェ スタディールーム ものづくり工房	コーディネート力 コミュニケーション力 大学・企業・農家など様々な方をまとめる力
環境全般	市内だけでなく、他市、地域、山などといった広域・流域との連携	水と緑の研究会 山梨などの水源巡り 他自治体と連携した講座（間伐材・森の話を開ける講座など） 千川上水と五日市街道の雑木林を歩く	エコカフェ ↓ フィールドワーク	フットワークの良さ アーティスト性、学生 専門家、企業タイアップ
全般	『1人で悩まないで』 例えば、すてたいけどすてられない物などの悩みを他者と共有し、解決の糸口をつかんだり、共有することで新たな活動を生み出す。	もやもやカフェ	フリースペース または エコカフェ (仕切りのない空間)	
全般	『専門的な環境の基礎知識を学ぶ』 SDGsなど、企業でも環境に関する知識が求めら	大人(特に文系)のための環境連続講座(オープンカレッジ的なもの)	エコカフェ スタディールーム	

環境 テーマ	伝えたいこと(例)	伝えるためのプログラム (例)	主な利用空間	顔が見える運営に 必要な要素(例)
	れている。働き方改革で、 仕事以外の時間の確保 がしやすくなってきている ことも踏まえ、社会人に環 境の基礎知識を伝える。			
全般	『地球視点』 普段は自分の身の周りの ことしか見えないが、もの がどこからくるのか、産地 の環境(自然環境、労働 環境等)など地球規模の 視点で生活を見直す。	みんなで展示をつくる 子ども、大人、企業、専門 家など色々なレベルの展 示 親子で夏休みの宿題もい いかも？	フリースペース	
ごみ・資 源 食品ロス	ごみは資源になる 分別は良い資源にするた め 循環させることができると 食べるものの大切さ	もったいないプロジェクト ごみの展開・分別調査 バイオマス研究、エネルギ ーづくり たい肥化と野菜づくり 手打ちそばができるまで を知る(作る大変さを知る ため)	相談コーナー プラットホーム クリーンセンター屋上ベジ タブルガーデン キッチン	●アイデアを形に仕向け るファシリテーター ●支配人を置く 【支配人の人物像】 ・フットワークが軽い人 ・地域とつながれる人 ・まきこみ力のある人 ・聴く耳をもつ人 ・出てきたアイデアを形 にできる人 ・直営(嘱託でも) ●企業からの出向先 ●こんなスタッフがいると よい ・専門的な知識がある (適確に相談窓口を案内 してくれる) ・コーディネーター(3人 以上必要) ・おしゃべりなおばさん (交流を促す) ・外へつないでくれる(交 流を促す) ・SNSをマメに更新する (情報発信)
ごみ・資 源	気軽に楽しみながらでき る！	生ごみ処理のレクチャー	エコカフェ	
ごみ・資 源		廃材の提供 小学校の図工の授業で は、廃材を工作の材料に しているため、教材として 提供する。	ものづくり工房	
ごみ	『もったいない精神』 使い捨てしない、よい物を 長く大切に使う。	直し方を学ぶ、市民同士 教え合う(もくもくと作業す るのではなく、交流がうま れる仕掛けが必要) ものづくり工房利用者講 習会(工具の使い方など を学ぶ) 直すのに必要な部材(パ ーツ)のストック 部材(パーツ)をストックす	ものづくり工房・ストックヤ ード	

環境 テーマ	伝えたいこと(例)	伝えるためのプログラム (例)	主な利用空間	顔が見える運営に 必要な要素(例)
		るために、廃材を解体・分 別する 包丁研ぎができる		
食品ロス	もったいない！ どうしたら食品ロスがなくな るか	食べ物かえっこ 眠っている食材を持ち寄 って、活用術を学んだり、 ほしい人に提供したりする	エコカフェ フリースペース	
農・食文 化からES Dへ	種まきから収穫まで体験 することでつながりを学ぶ 収穫したもので何ができる のか楽しみを知る 日本の発酵文化を知る (カビなど)	梅や夏みかんの収穫体 験とシロップ・ジャム・酒づ くり 地域にある食べ物のマッ プづくり 味噌玉づくり	エコカフェ・ものづくり工房 (植栽に梅や夏みかんを 植える→収穫→キッチン で調理、試食)	
緑・農地	『農地の大切さ・おいしい 食・地産地消』 法制度の影響もあり、農 地の宅地化がますます進 むことが懸念されるため、 農地を保全するために、 農地の大切さを伝えてい く	地元野菜直売所 まちなか農家プロジェクト (三鷹市)の武蔵野市版 エコクッキング 植物・野菜工場(水耕栽 培の実験)	エコカフェ(キッチン) フリースペース ものづくり工房	
水循環 緑 水と文化	武蔵野市の成り立ち、江 戸時代との比較 生命と水・命 地下水を飲んでいること、 湧水がなくなること	地図づくり、図鑑づくりクイ ズ、スタンプラリー 湧水巡り、井戸探検隊 水車の設置	フィールドワーク+プレスト をカフェ(相談コーナー) で行う	●運営の視点 <u>ソーシャルインパクト</u> 市民生活への波及効 果を踏まえて、定量的 に施設を評価、エコプ ラザ独自の目標・指標 を掲げる。 例えば・・・ ごみ減→ごみ処理経費 削減 元気な高齢者が増える →医療費削減
水循環	雨を楽しむ。	雨とアート 防水スプレーで地面に絵 を描き、水をかけると絵が 浮かび上がる。貯留槽を 見えるように設置し、貯め た水を利用しても良い	北側外部ヤード	
水循環	浸水被害・対策	アスファルトや土、芝生な ど様々なものに水をかけ て、どれだけ水が浸透す るか実験する	東側外部空間	●市民も運営側に 利用者と運営者を明確 に区分せず、利用者も

環境 テーマ	伝えたいこと(例)	伝えるためのプログラム (例)	主な利用空間	顔が見える運営に 必要な要素(例)
水循環		雨水洗濯	芝生広場	<p>運営に携わり、施設に関われるような仕組みがあるとよい。</p> <p>●参考事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・けやきコミセン だれでも(市民でなくても)参加できる。だれかが何かをやりたいと言えばとりあえずやってみることができる。 ・アーツ千代田 3331 地域となにかやることを条件に事業者を公募しており、地域とよいつながりができている。
緑	育てる喜び	シードバンク	ものづくり工房	
緑	植物を知る 名前の由来や木の歴史 など、ストーリーを知る	樹名板(多摩産材)→個人宅にも配布する 名前の由来なども紹介する	ものづくり工房	
緑	武蔵野市民は緑が好き!	市民の森 庭の木を寄付する その木の歴史・ストーリーを伝える	東側外部空間	
緑	緑の循環 落葉・剪定枝の利用 (背景:落葉を気にして庭の木を切ってしまう→活用できないか)	灰の研究所 落葉・枝の文化的利用 (茶道で灰を利用することなど)	ものづくり工房	
生物多様性 地球温暖化	植生の違い、土の違い、 外来種の多い現状 なぜ外来種が問題になるのか 温暖化の影響と生物の関係(セミの羽化が早いなど)	観察、最終、身近な発見 →探求につなげる エコツーリズム・ビオトープ コンクール	クリーンセンターリサイクル ガーデン 芝生広場、フィールドワーク	
生物多様性	『メダカを放流しないで』 家庭で飼育されているメダカの多くは外来種である。外来生物を放つてはいけないことを伝える	家庭で飼育しきれなくなってしまったメダカなどを引き取る エコプラザに大きな水槽を置き、そこに放し、欲しい人が持ち帰る	東側外部空間	
エネルギー×防災	自然エネルギーと防災の 視点 地産地消ができていない	太陽光街灯・自動販売機 太陽光パネルを防災の視点で設置する	東側外部空間 屋上	
エネルギー×住まい	エコ・省エネとの関係	住宅の断熱材の展示	フリースペース	

5 エコプラザ（仮称）の管理運営

(1) 運営形態

① 管理運営業務の全体像

エコプラザ（仮称）において想定される管理運営業務の全体像を、管理系業務と事業系業務に分けて、次のとおり整理した。

区分	内容	業務の例
管理系業務	全体調整	マネジメント、ファシリテート、会議体運営
	危機管理	日常点検、マニュアル整備、避難訓練、不審者対策、情報セキュリティ、救急救命講習、見守り
	その他	アーカイブ管理、専門性の確保、人材育成、情報伝達
	総務	個人情報管理、文書管理、システム管理、環境マネジメント、検証・評価
	労務	職員募集・登録・解除、出退勤・シフト管理、賃金等支払い業務
	財務	事業計画、予算、事業報告、決算、予算執行・管理、備品等管理、資金の確保
	建物・設備の維持管理	保守点検、修繕、安全対策、警備、清掃
	窓口	受付、コンシェルジュ、入退室管理、来館者数管理
	案内	施設見学・視察対応、クリーンセンターとの相互案内、展示物の解説
	利用申請・予約	部屋貸し、見学・視察受付、講座等プログラム、出前講座、講師派遣、図書・資料・教材等
事業系業務	情報の伝達	情報発信、情報収集
	展示	常設展示、企画展示、環境配慮技術・設備の解説、制作物の掲示、補修等の実演、廃材・素材の収集・陳列・提供・販売
	参加、体験	イベント、講演会、講座等日常プログラム、出前講座・出張イベント
	探究、行動、活動	調べ学習、相談、プロジェクト、市民提案事業、ボランティア・講師の養成・研修・勉強会、活動支援、アーカイブ
	連携	クリーンセンター、学校教育、地域資源の発掘・活用、コーディネート・マッチング、場づくり、ネットワーク化、情報共有・意見交換の場、広域連携、多世代交流

② 運営者

エコプラザ（仮称）の運営は、将来的には行政の関与する範囲を減らし、独立性、独自性のある事業の実施が可能な運営形態を目指す必要がある。しかし、現在の状況を考慮すると、開設当初から、完全に独立した運営形態をとるのは難しいと考えられる。

このため、5年間を目途に過渡的な運営体制を採用する。この体制は、市の直営体制と個別の事業委託、市民参加を組み合わせたものである。その間に事業の安定化・ノウハウの蓄積、事業に関わる人材の育成等を進め、将来の運営体制のあり方を検討する。そして、5年後には新たな運営形態を導入する。この間の運営者を業務別に示す。

年度	運営形態の検討等	管理系業務				事業系業務
		全体調整 危機管理 その他	総務 労務 財務	建物・設備の 維持管理	窓口 案内 利用申請・予約	
2020	開設	市 ※市がもつ 連携力を用 いる	市 ※市がもつ 経験・スキル を用いる	市 ※一部専門 事業者に委 託	利用者から 顔が見える 運営者	利用者から 顔が見える 運営者
2021	事業安定化					
2022	人材育成					
2023	新たな運営 形態の検討					
2024	新たな運営 形態に移行	全業務を担う運営者 (市独自の新たな運営手法、指定管理者等)				

また、運営者それぞれの特徴は次のとおりである。

市	利用者から顔が見える運営者 全業務を担う運営者
<ul style="list-style-type: none"> 市の方針を反映できる 学校など市の事業と連携しやすい 必要によって事業等に職員を動員できる 市民にとって重要な施策は責任をもって直営で実施するなど適切な役割分担が可能 	<ul style="list-style-type: none"> 休日開館や時間延長などサービスの向上を図りやすい ネットワーク・人脈を生かした広域的な連携や多様な事業展開が可能である

(2) マネジメント

① 運営者の資質

エコプラザ（仮称）の運営に携わる者には、施設の目的に合った資質が求められる。中でもとくに次の資質は重要である。

ア お互いに顔が見える関係の構築

エコプラザ（仮称）においては、利用者と運営者の信頼関係が不可欠である。利用者との信頼関係を築くためには、普段から個性の見える一人の人間として利用者に接し、お互いが顔なじみとなるような関係を築くことができる資質が必要である。

イ しっかりと耳を傾けて聴く姿勢

エコプラザ（仮称）の重要な機能として、利用者からの環境問題や環境活動に関する質問、意見、相談に対応することがある。このときに、しっかりと利用者に寄り添い、真摯に耳を傾ける姿勢をもって対応できる資質が必要である。

ウ エコプラザ（仮称）の「顔」

上記2項目の資質を表す象徴として、施設の「顔」となる存在があることが望ましい。突然にそのような人材が現れるわけではないので、運営者一人ひとりが施設の「顔」となる意識をもつとともに、運営を続けていく中でそのような人材を発掘、育成していくことも必要である。

② 事業の評価

エコプラザ（仮称）のマネジメントとして、事業計画の作成、評価、見直しを継続していく必要がある。

ア 事業の評価

一般的に言われる来館者数は、評価の一つの基準となることはあっても、総合的評価として、必ずしも評価基準となるものではない。そこで次のような評価の手法が考えられる。

- ・活動の結果から生じる市民生活への波及効果を定量的に把握し、価値判断を加える「ソーシャルインパクト評価」により、エコプラザ（仮称）独自の効果を測定する。
- ・様々な事業を実施した結果、SDGs（＝持続可能な開発目標 17 項目）にどのぐらい貢献し、より良い社会になったかが見える化できると良い。エコプラザ（仮称）が目指すものに対し、どれだけ効果があったかをSDGsへの貢献度で評価する。
- ・学習過程で生徒が作成した様々なものを保管するポートフォリオ（ファイルフォルダに集められた資料や情報）を使った評価も考えられる。個人の変容を質的、総合的に評価するポートフォリオは、個人が変容し、行動につながったことまで評価することができる。

イ 事業の検証

エコプラザ（仮称）では、運営について協議する運営協議会（仮称）を設置し、事業や施設の総合的な評価を行い、年度ごとに報告する。検証結果は翌年度以降の事業計画に生かし、マネジメントに生かす。

③ エコプラザ（仮称）の開設に向けたコミュニケーション

エコプラザ（仮称）の運営においては、市民、団体、事業者等との積極的なコミュニケーションが必要である。施設の開設までの期間もコミュニケーションに努め、その存在を広く知ってもらふ必要がある。そのために、次のような事業が考えられる。

ア エコプラザ（仮称）の名称公募

エコプラザ（仮称）の存在を周知するとともに、将来にわたって愛着を感じてもらえるよう、正式な名称を公募する。

イ プレ事業

エコプラザ（仮称）の開設前から、プレ事業として、講演会、講座等を開催し、エコプラザ（仮称）に関わる人の輪を広げていく。

ウ ニュースレター

エコプラザ（仮称）について市民に広く知ってもらえるよう、開設までは、ニュースレターを継続して発行する。

武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議

検討のまとめ 資料編

-
- 1 環境教育からESDへ
 - 2 豊田市視察資料
 - 3 温暖化啓発活動のご紹介と、エコプラザへの期待
 - 4 水の学校とは
 - 5 機能・空間活用グループワークまとめ①
 - 6 機能・空間活用グループワークまとめ②
 - 7 機能・空間活用グループワークまとめ③
 - 8 エコプラザ（仮称）ニュースレターvol. 1
-

1 環境教育からESDへ

環境教育からESDへ

武蔵野市エコプラザ(仮称)検討市民会議
2017. 4. 27
小澤 紀美子

1 環境教育からESDへ

公害対策: 全国小中学校公害対策研究会
「外なる自然」破壊→汚染をゼロに
分析的・社会科学的なアプローチ

↓

環境対策: 自然・環境共生
「内なる自然」破壊
総合的なアプローチ

↓

持続性と創造的な地域・社会づくり:
統合的・ホリスティックなアプローチ
「環境・生命文明社会の創造」2014・7

□ 環境教育・ESDの概念の変遷

1972年ストックホルム国連人間環境宣言
EEの目的は「自己をとりまく自然及び人為的環境と人間との関係を取り上げ、その中で人口、汚染、資源の配分と枯渇、自然保護、運輸、都市と地方と開発計画が人間環境に及ぼすようなかわりを持つかを理解させる教育のプロセスである」

1977年トビリシ環境教育政府間会議「トビリシ宣言」
EEの目標「関心・知識・態度・技能・評価能力・参加」
勧告10「EEは、国家間の責任と連帯の精神を助長し、経済的、政治的、生態学的な面から、近代的世界における相互依存性に対する関心を助長するのに役立つものでなければならない」
勧告11「それは当然、学際的で無くてはならない。環境教育は環境について(about)学ぶことではなく、環境から学ぶ(through)ことを意味する。」→「教育の変革」

1980年世界環境保全戦略「環境と開発に関する世界委員会」→「持続可能な開発SDの考え方」
1992年国連環境開発会議「環境と開発に関するリオ宣言「アジェンダ21」」
第36章「教育、意識啓発および訓練の推進」:「教育は持続可能な開発を推進し、環境と開発の問題に対処する市民の能力を高めるうえで重要である。...教育が効果的なものとなるためには環境と開発に関する教育が物理的、生物学的、社会経済的な環境と、人類(精神的な面を含む)の発展の両面の変遷過程を扱い、これらがあらゆる分野で一体化され、伝達手段として公式、非公式な方法及び効果的な手段を用いるべきである」

1987年テラロニキ国際会議「テラロニキ宣言」
「持続可能性の概念は単に環境だけではなく、貧困、人口、健康、食料の確保、民主主義、人権や平和を全て包括する。持続可能性とは、究極的には文化的多様性や伝統的知識を重んじる道徳的・倫理的義務である。」。EE=「環境と持続可能性のための教育」と表現してもかまわない

2014年ユネスコESD方針
2014年GAP

トビリシの環境教育の原則 1977年

1. 環境の全体性—自然と人工、技術と社会(経済、政治、文化、歴史、倫理、審美)の側面—を考慮すること
2. 学校教育、学校外教育を問わず、就学前から生涯にわたって継続されること
3. 全体を見通したバランスのとれた視野を得るために、各専門分野に依拠しつつ、学際的なアプローチをとること
4. 学習者が他の地域における環境状況について理解を得られるよう、自分たちの住む地域、国全体、アジアなどの地域全体、国際的な視点から、主要な環境問題を取り上げること
5. 歴史的な視野を取り入れつつも、現在と未来の環境の状態に焦点を当てること
6. 環境問題の解決と予防のためには、地域、国、国際的協力の必要性和重要性を啓発すること
7. 開発や経済の計画において、環境の側面をきちんと考えてみるようにすること
8. 学習活動を計画する際に学習者が役割を担ったり、意思決定や決定結果を受け入れる機会を提供すること
9. 環境に対する感性、知識、問題解決技能、価値観の明確化は、各年齢に合ったものとするが、早期段階では、自分たちの住む地域における環境への感性の形成を重視すること
10. 学習者が、環境問題の現象や原因を発見できるように手助けすること
11. 環境問題が複雑に絡み合っていることを強調し、そのために批判的思考や問題解決技能の開発の必要性を重視すること
12. 実践活動や直接体験を重視しながら、環境について、そして環境から学び教える広範な手法を活用するとともに、多様な学習環境を活用すること。

われら共有の未来
環境と開発に関する世界委員会 1987年

□ 将来の世代のニーズを充たしつつ現代の世代のニーズも満足させるdevelopment

何にましても優先されるべき世界の貧しい人々の必要性の概念+技術+社会組織のあり方によって規定される現在及び将来の世代のニーズを充たせるだけの環境の能力の限界についての概念→公正性/公平性

□「これからの環境教育・環境学習—持続可能な社会を目指して—1999年

環境教育の進め方

- ①環境問題は様々な分野と密接に関連しているため、ものごとを相互連関的かつ多角的にとらえていく総合的な視点が不可欠である。
- ②すべての世代において、多様な場において連携をとりながら総合的に行われること。
- ③活動の具体的な目標を明確にしながら進め、活動自体を自己目的化しないこと。
- ④環境問題の現状や原因を単に知識として知っているというだけでなく、実際の行動に結びつけていくこと。
- ⑤そのためには課題発見、分析、情報収集・活用などの能力が求められるので、学習者が自ら体験し、感じ、わかるというプロセスを取り込んでいくこと。
- ⑥日々の生活の場の多様性を持った地域の素材や人材、ネットワークなどの資源を掘り起こし、活用していくこと。⑦地域の伝統文化や歴史、先人の知恵を環境教育に生かしていくこと

環境教育の内容

- ①自然の仕組み: 自然生態系・天然資源及びその管理
- ②人間の活動が環境に及ぼす影響: 人間による自然の仕組みの改変
- ③人間と環境のかかわり方: 環境に対する人間の役割・責任・文化
- ④人間と環境のかかわり方の歴史・文化

を系統性と順次性を視野に入れて展開していく

□「国連 持続可能な開発のための教育の10年」(提言)2004年→2005年～2014年

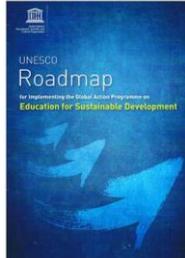
- ・学際性、総合性、価値観や原則の共有、批判的な思考と問題解決、多様な方法
- ・参加型の意思決定、地域とのかかわり

<ユネスコ2004年12月>

ESDユネスコ世界会議2014.11.10~11.12
GAP(グローバル・アクション・プログラム)

- ①政策的支援
- ②教育・トレーニングの場に持続可能性の概念を取り入れていく(機関包括型アプローチ)
- ③教員やトレーナーのスキルアップ
- ④ユースの役割支援と動員
- ⑤地域コミュニティや地方自治体でのコミュニティ・レベルのESDプログラム策定の推奨

↓
あいち・なごや宣言



2030SDGs: 持続可能な開発目標

2015. 9国連



社会に開かれた教育課程
三つの柱を踏まえた日本版カリキュラム・デザインのため

主体性・多様性・協働性
学びに向かう力
人間性 など

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

どのように学ぶか
(アクティブ・ラーニングの視点からの
不断の授業改善)

学習評価の充実
カリキュラム・マネジメントの充実

何を知っているか
何ができるか

個別の知識・技能

知っていること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

自然・文化・社会・人の相互関係性

学術会議環境学委員会



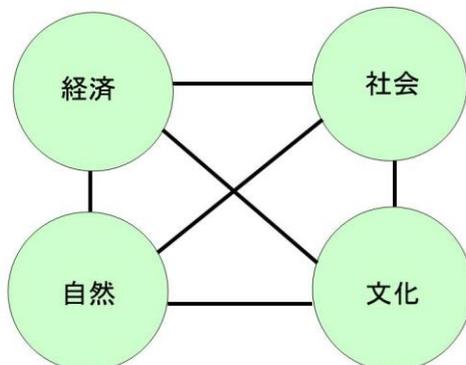
地球公共財としての視座: 地球におけるすべての
生命体が、将来にわたり持続的に生きて
いくための共有の資源

物的環境: 気候、地形、水、植生、土壌など

社会的環境: 政治、経済、制度など

文化的環境: 歴史、教育、コミュニティ、慣習など

持続可能な発展にむけて



過去に学び・今を知り・未来から学ぶ



暮らし・生業と水ー農・漁・森ー

見える化
Classified - Unclassified

水と暮らす黒部市とその周辺地域

北アルプスの雪どけ水が美しい扇状地をつくり、きれいな水に充たされた黒部市とその周辺の地域の暮らしは「黒部川扇状地湧水群」に支えられ、山ー河川ー海ー水蒸気ー雨・雪という水循環の中で成立→水循環を守り、伝えを学ぶ基本がこの地域にある

「清水」は「しよず」と言われており、地域の方々が保全している。この地域は水循環と立山黒部ジオパーク(2014年8月認定)により地球規模の大地の成り立ちと現代の暮らしを結びつけて考え・学ぶ・実践することができる「自然と文化の学びの場」でも。

https://www.google.co.jp/?gfe_rd=cr&ei=P YxZvO7C8798wfl1qPYAw&gws_rd=ssl#q=.....

湖西地区のかばた<川端>

「針江・霜降の水辺景観」地区

↑グリーンレターNo. 36:P23より

2 ESD・EfS/EEに関して

ESD・EfS(含むEE)とは

- * 人と人、人と自然、人と地域、人と文化・歴史、人と地球との関係の再構築
- * 問題そのものを教えることではない
- * 教育のあり方を問う課題

Environmental Education(環境教育)

↓

環境をトピックとして学ぶESD
Education for Sustainable Development
ESD/EfS
(持続的発展のための/むけての教育)

3 持続可能な社会をめざす

低炭素・資源循環・自然共生政策の統合的アプローチによる社会の構築～環境・生命文明社会の創造～ 2014. 7

地球温暖化の危機 資源浪費による危機 生態系の危機

統合的アプローチ

低炭素社会 自然共生社会

循環型社会

http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=24772&hou_id=18377

何が問題か

ー「外なる自然」破壊と「内なる自然」破壊ー

- ◆ 効率性重視の社会のシステムの分断化
- ◆ グローバル化
- ◆ 人と〇〇との関係づくり困難化など
 - * 効率性重視の社会における分断化
 - * 自然との関わりが希薄
 - * 他者との交流、人との関係づくりの困難
 - * 自己否定の傾向
 - * 五感の衰退
 - * 人間性の解体
- ◆ 自己肯定感や物語を紡ぎ出す力

4 教育のあり方:21世紀の人づくりとは

「総合的な学習の時間」

1996年-2000年-2002年-2007年

- 知識伝達型教育観から
探究創出表現型教育観へ
- 伝統知(生活知)と科学知(学校知)
- 「学び」と「教え」を分裂させない
- Problemsを教えるのではなく
→ Issuesへの対応

➤「学び」は多くの知識や技能を身に付けることではなく、疑問や好奇心に基づいた活動で出会う事柄を関連させ、意味づけていくプロセス

子どもが大きく前進する原動力は、授業での子ども相互のかかわりである。子ども相互が活動をすりあわせ、自己を見つめ直しながら自分の成長ととらえる」評価を子どもたちとともに創りあげる。

総合学習の展開においては、こうした教師側の「仕組み(構え)」が必要であるが、一方、「仕組みない(構えない)」で子どもの学びの状況に応じて考えながら展開する「反省的实践家」としての柔軟な対応も必要

系統的な学習と発見型学習

◇ どのように学ぶ/教える

1 + 1 = 2

2 = ? + ? ⇨ 正解が無いことへの対応

- ◇ 学び方を学ぶ **How to Learn**
- ◇ about : ~について知る・学ぶ
- through : ~を通して学ぶ

小澤の教育観構成主義:ピアジェ

* 知識は目的に応じて事実から切り取られ、構成される

→「学習」:知識の受容ではなく、知識を探究し構成する主体的な活動「自分の人生に必要な知識を自ら求め、知識を構成していく活動」

社会構成主義:ヴィゴキー

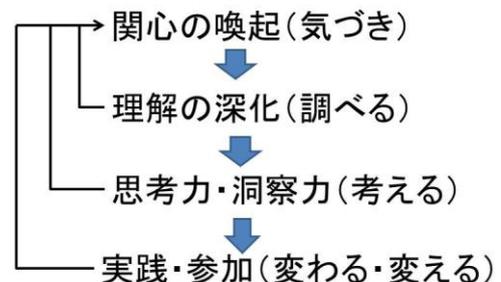
* 構成という活動は、孤立した個人の活動ではなく社会的な脈絡、社会的な人間活動の中で起こる
→学習の質←協同活動による

持続可能な発展にむけての環境教育

- ①学際的なアプローチ ②システムシンキング (Systems Thinking) ③探求性や実践性を重視する参加型アプローチ ④批判性や多面的な見方を重視する問題解決型アプローチ
- ⑤多文化共生の視座を基盤とするアプローチ
- ⑥「かかわり」「つながり」を重視する統合的なアプローチ(ホリスティックなアプローチ)
- ⑦さまざまなセクターとの連携性や協働性に基づくアプローチ

反省的思考過程の重視

<J・デューイ>



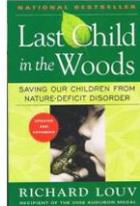
自然は「生きる力」の原点
 自然体験は学びの土台づくり
 自然体験は「サプリメント」ではない



D・ソベル著／岸由二訳
 日経BP:「足もとの自然から始めよう-子どもを自然嫌いにしたくない親と教師のために」

R・カーソン: センス・オブ・ワンダー
 <神秘さや不思議さに目を見はる感性>

R・ループ: 自然欠乏症
 「あなたの子どもに自然が足りない」



* 教えたからと言って学ぶとはかぎらない

<里見実「学校でできることは、なんだろうか」>

* 「学ぶ」こと→「教えてもらう」ことへ

→知識は教師から「教わる」もの→「教科書」に記述された知識が価値をもつ→学びの主体性や探究意欲・能力の喪失

<イリイチ:「脱学校の社会」>

* 教育・学びの再生→学校・地域の可能性

→他者との相互作用→「物語」を紡ぎ出す力
 個が学ぶ／他者と学ぶ／協働・協同で学ぶ
 人と人／人と自然／人と社会

5 どのように考えていくか

-コミュニティ再生に向けて-

- ◆個別化と均質化→多様性(生物・文化・価値)
- ◆総合性・統合性→持続可能な地域づくり
- ◆「新しさ(破壊)」→「育む」
- ◆「平均値」型→「平均値+分散」型
- ◆「おまかせ」→「いっしょに」: パートナー
- ◆「たてわり型」→「横断・網の目型」



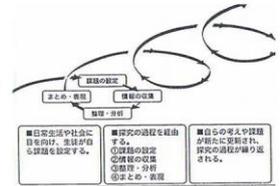
学びを魅力的にするには?

「!」: 気づき、感動+関心喚起

「?」: 問う<疑問>+調べる<考える>

「+」: 引きつける、次の一歩へ

アクションリサーチ →
 探究的な学習における
 生徒の学習の姿



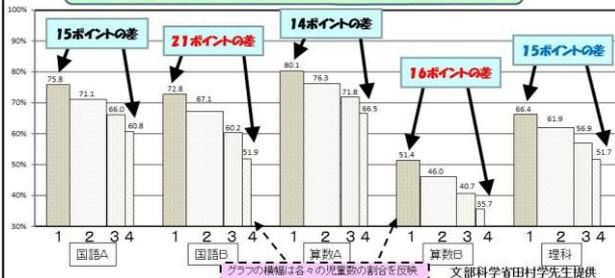
総合的な学習の時間の現状

H27全国学力・学習状況調査(小学校6年生)

「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて、情報を集めて整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の回答と平均正答率のクロス集計

* 「1 当てはまる」「2 どちらかといえば、当てはまる」「3 どちらかといえば、当てはまらない」「4 当てはまらない」

「総合的な学習の時間」の趣旨に即した活動に取り組んでいる児童ほど、平均正答率(特にB問題)が高い。



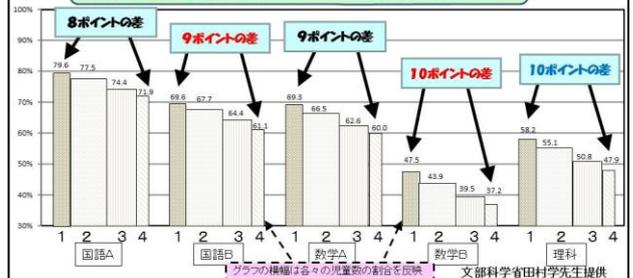
総合的な学習の時間の現状

H27全国学力・学習状況調査(中学校3年生)

「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて、情報を集めて整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の回答と平均正答率のクロス集計

* 「1 当てはまる」「2 どちらかといえば、当てはまる」「3 どちらかといえば、当てはまらない」「4 当てはまらない」

「総合的な学習の時間」の趣旨に即した活動に取り組んでいる児童ほど、平均正答率(特にB問題)が高い。



地域を創り・育てる学力 〈村を育てる学力〉

- 持続性
 - 地域性: Sense of Place
 - 共生性
 - 多様性
 - 協働・協同
 - 内発性: 自立・内発的な力
 - 共創: 社会的想像力と創造性
- *東井義男: 「村を育てる学力」
*J・デューイ: 「経験と教育」「学校と社会」

今、求められている学力とは？

過程→産出モデル→テスト: 量的に測定できる尺度



PISA型学力
Educate の意味
e〈外へ〉+duc〈導く〉+ate
=能力を導き出すようにする
学ぶことは「問う」こと

養育期間: 4年生まで←豊かな自然体験
内発的発展期: 5年生~
科学的認識/思考力/判断力/実行力
各教科→関係づける力/引き寄せる力

鍵となる：対話する力・対応する力・ 活用する力・越境する力



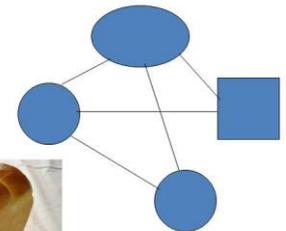
文部科学省教育課程
言語活動/体験活動
2007年

DeSeCoプロジェクト<OECD>

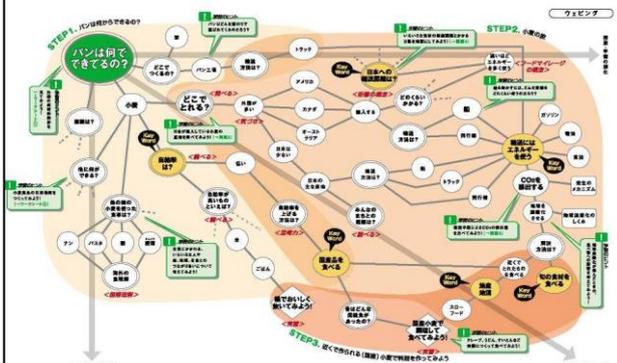
思考回路の活性化 —Webbingの発想—



学ぶこと: 「問う」こと



ウェビングー 食・水・エネルギー・ごみ・もの・住・まち



教育における体験の意味

- 「関係的行為としての『プロセス』という位置づけ (『体験』の独立は、『学び』につながらない)
- 事前-実習(体験)-事後学習 生きることと『学び』のつながり <『持続可能な学び』>
- 『体験』の本質—世界観への主体的な『潜入』
- 体験を通して得たものから、自己実現(社会変容)への支援 (一人一人の社会的役割への気づき)

プロセススキルの育成 —未来を創る力—

- コミュニケーション能力
 - パターン分析能力
 - 批判性
 - 論理的思考力と決定能力
 - 自分とコミュニティへの責任
 - 他者と共に働く能力
- * 想像力と創造性
= 社会的想像力

学習の四本柱

- (1) 知ることを学ぶ
- (2) 為すことを学ぶ
- (3) (他者と)共に生きることを学ぶ
- (4) 人間として生きることを学ぶ

<「学習：秘められた宝」ユネスコ21世紀教育
国際委員会:1996年>



土地倫理<アルド・レオポルド>

「野生のうたが聞こえる」

* 自然のピラミッド

- ・「人間中心主義」から
「生物中心主義」への転換
- ・個人とは相互に依存し合う諸部分から
成る**共同体の一員**



- ・土地<土壌、水、植物、動物>にまで拡大

* 倫理枠一個人、社会、土地までに拡大

6 ESD/EEの事例

「課題研究」とは

高等学校にあたる後期中等教育の課程の一部として、学んだことの集大成として学習者が取り組みのために開設されている科目

事例

- * 山形県置賜農業高校の取組
- * 尾瀬高校の取組←松井先生の講義より
- * 中学校科学部の取組

持続可能な地域づくり：自然の保全と地域活性化の取組

山形県川西町：井上ひさしとE・バード

（一社）置賜自給圏推進機構
・地産地消に基づく地域自給と圏内流通の推進
・自然と共生する安全・安心の農と食の構築
・教育の場での実践
・医療費削減の世界モデルへの挑戦
・「産・官・学・民」が一体化した推進
<米沢市・長井市・南陽市・川西町・小国町・高畠町・白鷹町・飯豊町>

図3 高校生によるまちづくり

【山形県立置賜農業高等学校の取組】

置賜農業高等学校のある山形県南部の川西町は、急速な人口減少や高齢化によって、市街地の商店街がシャッター街になり限界集落が増えるなど、まちが衰退していた。2005年12月、川西町の行政改革案が提示され、「置賜農業高等学校の最寄り駅を無人化する」という公報が発表された。無人化を防ぐため、同校の女子生徒12名により「えき・まち活性化プロジェクトチーム」が結成された。

【結成の理由】

- ①駅に人がいないことは、高校生にとっては大きな不安であること。
- ②駅は、情報提供・地域交流の場としての役割があり、有人駅はまちづくりの基から大切だと考えたこと。
- ③駅の活性化は、同時に「まちの賑い」につながると思ったこと。

取組

- 駅前や通学路に花を植える
憩いの場をつくるため、駅前や通学路に花を植える。



生徒が育てたベゴニアを、住民と協力して植えた。

- 住民と連携したイベント
住民と連携した駅周辺の活性化事業。



▲えき・まち活性化プロジェクトチームのメンバー

●ヤギの駅長

学校で飼育する子ヤギを、初代駅長とし、イベントを開催した。新聞やマスコミに取り上げられ、駅や川西町の宣伝となった。



ごみ問題どう考える？－3Rs



市民教育としての協働経験の可能性

学びの様式の転換イメージ

	手段としての勉強	協働経験としての学び
内容	従来の教育 過去の歴史的文化 既存の教科内容 文脈から抽出された情報群	協働的な学び 現在の未来の課題 対話的探究により提起される身近な課題 状況に具体化される知恵
方法	教科内容の注入的な教授活動 動中心 受容的暗記中心 文化内容の伝達	共同的な学び合いの過程の重視 対話・参加・協働・表現という経験 文化創造の経験
教育関係	教える → 学ぶ 一方的な垂直関係	学び合う 相互的対話関係
学びの意義	個人的な利益の追求 手段としての学習 学歴取得、他者との競争、勝者	協働による存在感の獲得 自己実現としての学び(個性の発揮) 手ごたえのある学び(感性の動く学び) 批判的精神、協働の知恵、行動変容

＜広石英紀「市民教育としての協働経験の可能性」(「経験の意味世界をひらく－教育にとっての経験とは何か－」2003)より一部抜粋

持続可能な地域・社会づくり －暮らしの安全・安心－



- * 地域資源の活用
- * 新しい公共＝多元的な公共性
- * 当事者主権
- * 地域から＝地域主導・多様な主体の協働

宮内泰介「歩く、見る、聞く 人びとの自然再生」岩波新書
石城謙吉「森林と人間－ある都市近郊林の物語」岩波新書

社会共通価値の共創

学びて思わざれば、則(すなわ)ち罔(くら)し。思いて学ばざれば、則(すなわ)ち殆(あや)うし。
＜論語 為政第二より＞



古代文字
吉川まみ

21世紀を生きる君たちへ 司馬遼太郎

・・・未来というものである。

私は、歴史小説を書いた。もともと歴史が好きなのである。両親を愛するようにして、歴史を愛している。歴史とはなんだろう、と聞かれるとき、「それは、大きな世界です。かつて存在した何億という人生がそこに詰めこまれていて世界なのです。」と、答えることになっている。

ただ、私に言えることがある。それは、歴史から学んだ人間の生き方の基本的なことでもある。むかしも今も、また未来においても変わらないことがある。そこに空気と水、それに土などという自然があって、人間や他の動植物、さらに微生物にいたるまでが、それに依存しつつ生きているということである。

自然こそ不変の価値なのである。

人間は、自然によって生かされてきた。古代で中世でも自然こそ神々であるとした。このことは、少しも誤っていないのである。歴史の中の人々は、自然をおそれ、その力をあがめ、自分たちの上にあるものとして身を護ってきた。その態度は、近代や現代に入って少しゆらいだ。

……人間こそ、いちばんえらい存在だ。という、思いあがった考えが頭をもたげた。20世紀という現代は、ある意味では、自然へのおそれがうすくなった時代といっている。

同時に、人間は決しておろかではない。思いあがるということはおよそ逆のことも、あわせ考えた。つまり私も人間は自然の一部にすぎない、というすなおな考えである。

「人間は、自分で生きているのではなく、大きな存在によって生かされている。」

この自然へのすなおな態度こそ、21世紀への希望であり、君たちへの期待でもある。そういうすなおさを君たちが持ち、その気分をひろめてほしいのである。人間は、助け合って生きているのである。

私は、人という文字を見るとき、しばしば感動する。 **人**
人間は、社会をつくって生きている。社会とは、支え合う仕組み ということである。

ゆっくりとラディカルに

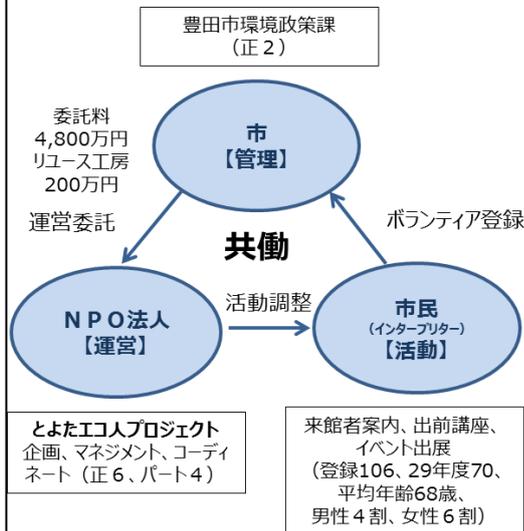
1. 地域の多様性・独自性
2. 文理融合型
3. 多様なフィールドで
4. 生活知と科学知の統合
5. 社会変革に向けて
→新たな学術と社会の在り方をデザイン
6. 多様な人材の活用への戦略性



2-2 豊田市環境学習施設 eco-T (エコット) の概要

- 運営方針：私たちがつくる私たちの学習施設
- 学習姿勢：気づきから行動へ
- 活動目線：市民が市民に伝える
- 施設の考え方：
 - 生活と環境とのつながりを実感する施設
 - 人を介して「気づき」を育む施設
 - 「気づき」を行動に結びつける施設
 - 参加・体験を軸に市民が作り上げていく施設

- 生活（暮らし）を軸にした環境学習
 - ごみを通して循環型社会に関する知識を学ぶ
 - 省エネ・新エネ等地球温暖化防止に関する知識を学ぶ
- 名称・愛称（eco-T エコット）
 - 市民に広く公募し、1,907件の中から公開審査会で決定
 - エコ+Tの「T」とは、豊田、渡刈、タウン（街）、テラス、ティーチャー（先生）、テキストブック（教科書）などの頭文字T



■ eco-T (エコット) がオープンするまで

平成15年度 環境学習施設基本計画策定
平成16年度 運営利用計画・展示設計委託
平成17・18年度 展示物製作・建物建設工事

市が事業視点で決定

市民の視点で参画
平成19年6月 オープン

平成15年度 基本計画策定ワークショップ
平成16年度 作戦会議、類似学習施設視察
平成17年度 パートナー会議、市民会議開催
平成18年度 展示製作ワークショップ、愛称募
展示解説ボランティア育成講座開始

■ とよたエコ人プロジェクトができるまで

- 平成20年4～9月 設立準備会議 (計5回、81名が参加)
- 平成20年12月 NPO法人「とよたエコ人プロジェクト」設立総会 (設立時社員23名、賛同者135名)
- 平成21年2月27日 愛知県より認証
- 平成21年3月19日 設立登記
- 平成21年4～22年3月 NPO法人中部リサイクル運動市民の会の傘下で運営トレーニング
- 平成22年4月 eco-T運営業務委託

2-3 豊田市環境学習施設 eco-T (エコット) の運営事業

■ 運営全般に関する業務

- 年間事業計画・事業報告・事業評価
- 運営マニュアルの整備

■ 管理運営に関する業務

- 施設の日常点検
- 備品管理・修繕

■ 施設利用等に関する業務

- 施設利用等の受付・対応
- 視察・研修対応
- 個人来館者対応

■ 環境学習支援に関する業務 (共通)

- 展示の保守・更新
- 学習プログラムの更新
- 環境学習補助教材等の貸し出し
- 環境学習活動の相談
- 情報の発信
- 来館手段の確保

■ 一般市民を対象とした環境学習に関する業務

- 環境講座の開催
- 市民フォーラムの開催
- こどもエコクラブ
- 地域等への派遣
- その他

■ 学校を対象とした環境学習に関する業務

- 公共施設見学対応
- 一般対応
- 出前授業

■ 市民ボランティア(インタープリター)に関する業務

- シフト管理
- 人材育成
- 活動支援

■ 共働促進に関する業務

- 定例会議
- 運営会議
- 事業計画説明会・事業成果説明会
- 学校との意見交換会

■ その他

- 職員研修
- 保険の加入

内はインタープリターがかかわっている事業

■ インタープリターとは？

- Interpreter = 通訳者
- もともと、自然と人との「仲介人」として自然解説を行う人の意。自然と人との橋渡しをする人。自然が発するメッセージをわかりやすく伝える専門家。
- エコットでは、「エコライフ」の案内人として、今の暮らしを一步エコに進めるために気づきを促す人。来館者や施設利用者、工場見学者への対応や出前授業等の学校対応、イベントへの出展、館内ワーキンググループ活動等を行っている。

■インタープリター活動の1日

- 館内来館者・施設利用者対応
 - ・8:45 午前シフトの担当と朝礼
 - ・12:45 午前シフトから午後シフトへの引き継ぎ・ふりかえり
 - ・16:50 午後シフトの担当と終礼・ふりかえり
- ※期間展示プログラムの課題、改善策、質問等をノートで情報共有

- 工場見学対応
- ワーキンググループ活動
- 学校対応
- イベント出展

・事務局とのふりかえり随時
・必要に応じて会議等で検討

【ふりかえり】

- 対象（時間や年齢など）にあった内容だったか？
- 体験をもとに自ら考えられる内容だったか？
- 新しい気づきや行動につながる内容だったか？

■インタープリター活動に向けて②

- 目的
 - ・インタープリター活動に必要な内容や新しい知識を習得する
 - ・インタープリテーションや来館者対応のスキルアップをめざす
 - ・インタープリターの経験を共有し、個々のインタープリターの活動に生かす
 - ・研修を通し、インタープリター同士の連帯感を高め、楽しく活動しやすい雰囲気をつくる
 - ・基本プログラムや展示学習プログラムなど、インタープリター活動のベースとなる内容について共通理解を図り、習得する。
 - 内容
 - ・小学4年生学校対応&推進校 説明会・学習会
 - ・「だんだんなんだか、おんだんか？」プログラム体験会
 - ・資源の循環を見に行くバス研修
 - ・防災・安全対策
- 等々

■インタープリター活動に向けて①

- 様々なマニュアル整備
 - ・エコット運営マニュアル
 - ・インタープリター用テキスト
 - ・くらしの環境学習推進校（出前授業用）
- ※このほかにも、展示ブースマニュアルや期間展示イベント進行マニュアルも作成・更新している

- 新規育成講座
 - ・講座の構成
 - 知る→深める→やってみる→ふりかえり→わかちあい
 - ・講座のめざすゴール
 - 「渡刈グリーンセンター」の案内
 - 「展示ユニット」のプログラムの作成
 - 「環境紙しばい」の朗読
 - ・講座の内容
 - 講座全5回+研修3回
 - 第1回 オリエンテーション
インタープリターの案内の体験
 - 第2回 展示学習プログラムの案内を考える
 - 第3回 渡刈グリーンセンターの見学・案内を考える
 - 第4回 紙しばいの練習、発表会にむけて
 - 第5回 発表会、エコットの活動について、修了式

- インタープリターに意識してもらっていること = **体験と発見** **が大切**
 - 「学ぶ側から見ると、、、」
 - ・聞いたことは忘れる、見たことは覚える（思い出す）、やったことはわかる、発見したことはできる
 - 「伝える側から見ると、、、」
 - ・言ったことは忘れられる、見せたことは思い出してもらえる、やって見せたことはわかってもらえる、発見してもらったことはその人の身に付く = 言ったかどうかではなく、**伝わったかどうか**

3 豊田市立土橋小学校

昭和54年の開校当時に将来の町の発展を予想して、周辺に4,000本の木を植樹。自然体験を中心とした活動が認められ、平成17年に内閣総理大臣賞を受賞した。

平成21年には環境省のモデル校として選出され、校舎外壁に太陽光パネルを配置するなど、多くの環境配慮設備が取り入れられ、ESDを中心とした環境教育に生かされている。



工口改修された校舎

環境学習型エコスクール 土橋小学校 のすべて!

豊田市立土橋小学校の概要

昭和54年 開校。開校当時に将来の町の発展を予想して、校舎周辺に4,000本の木を植樹。

平成17年 校舎周辺の自然体験を中心とした活動「みどりの学習」が内閣総理大臣賞を受賞。

平成21年 環境省のエコフロン事業のモデル校に選出される。

平成23年 環境に配慮した校舎に改修。環境モデル都市である豊田市と協力し、単なる校舎改修にとどまらず、教育と連動した環境学習型エコスクールとして研究を進めてきた。省エネの貢献で豊田市教育委員会表彰を受賞。

平成24年～25年 豊田市教育委員会の研究奨励を受け、ESDを中心とした環境教育を進めている。

作成・発行

豊田市立土橋小学校

〒471-0842
愛知県豊田市土橋町6丁目117番地

[Tel] 0565-29-5285
[Fax] 0565-26-6278
[E-mail] s-tsuchihashi@toyota.ed.jp
[URL] https://www2.toyota.ed.jp/sws/index.php?dms_tsuchihashi

温暖化啓発活動のご紹介と、エコプラザへの期待

@エコプラザ(仮称) 検討市民会議 2018.2.21

【1】「温暖化ミニ講座」 デモ (早送り)

【2】温暖化啓発活動の課題とエコプラザへの期待

※配付資料はスライド抜粋です(ページ番号不連続)。スライドの方をご覧ください。

(別紙)参考資料「温暖化啓発活動の事例紹介」

NPO 太陽光発電所ネットワーク (PV-Net) 東京地域交流会

環境省 地球温暖化コミュニケーター

環境省 家庭の省エネエキスパート試験には合格(未登録) 田中 稔

太陽光発電所ネットワーク(PV-Net)のご紹介

地球温暖化防止、持続可能なエネルギー社会実現のため、太陽光発電をはじめとする自然エネルギーの普及に取り組んでいる特定非営利活動法人(NPO)。2003年設立。会員は自宅に太陽光発電を設置している個人会員を中心に全国に約2000名。日本最大のPVユーザー団体でもあります。地域交流会+全国事務局のネットワーク。

※PV・・・太陽光発電のことを英語でPhotovoltaic powerといい、略して「PV」と呼ばれています。→ PV-Net

- 主な活動
 - ・相談室 … 設置検討時の助言や設置後のトラブル等の相談対応
 - ・PV健康診断 … 自宅の発電状況を点検するツールを提供(会員向け)
 - ・政策提言 … 国や自治体に政策提言、普及啓発事業の受託。
 - ・市民発電所 … 出資型市民共同ソーラー発電所の設置支援。

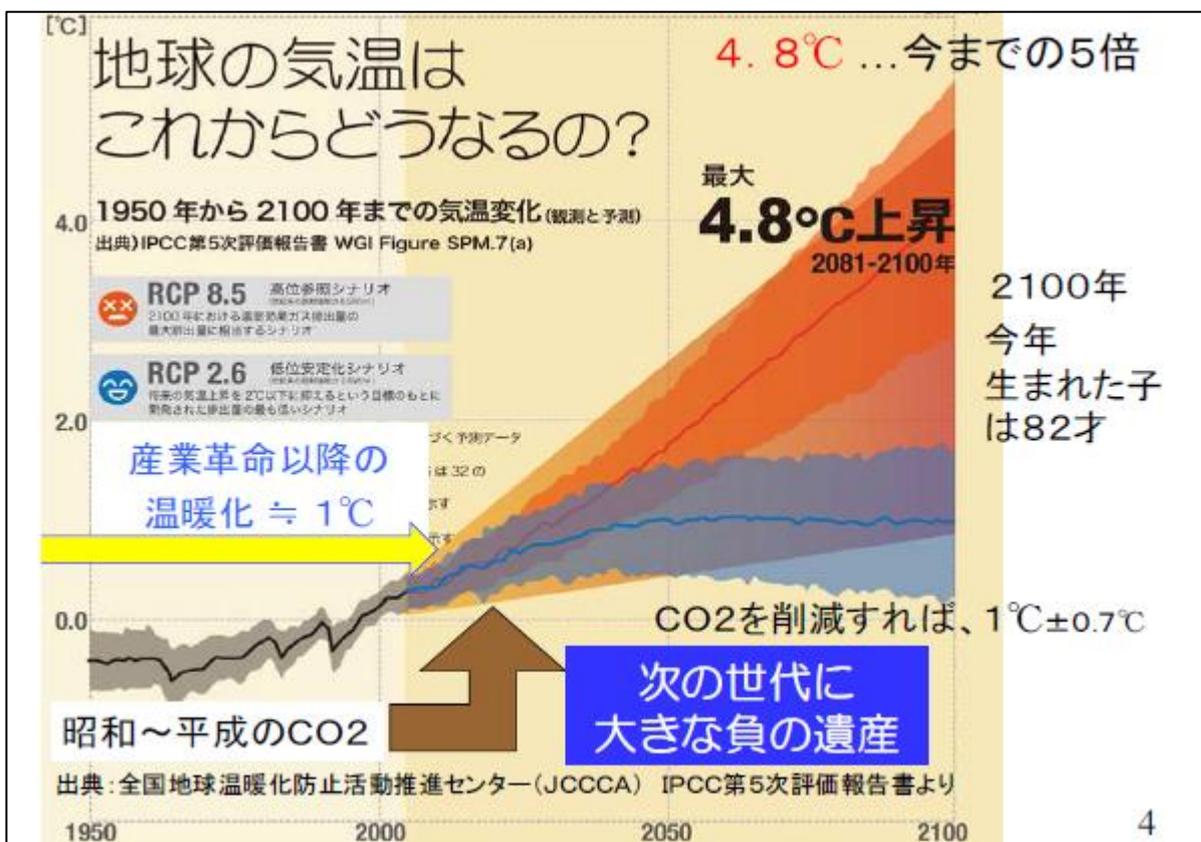
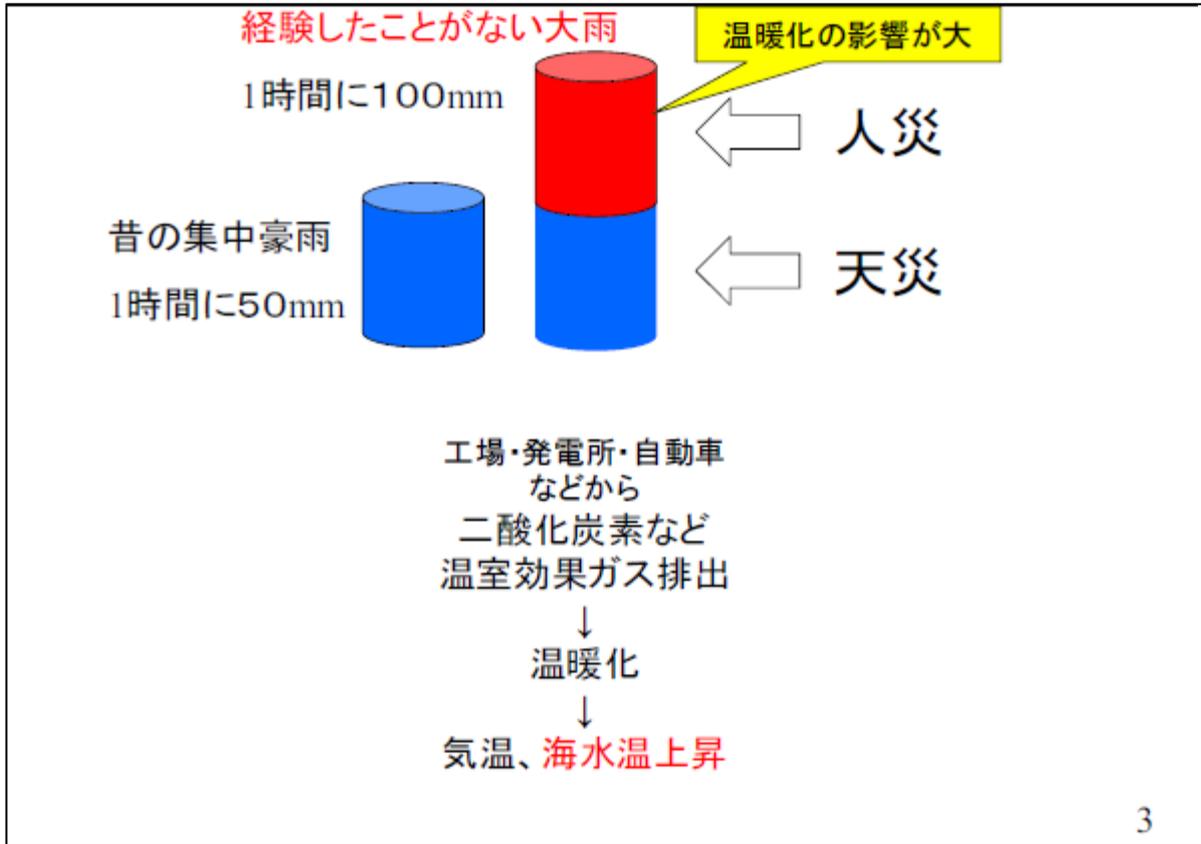
●東京地域交流会の活動

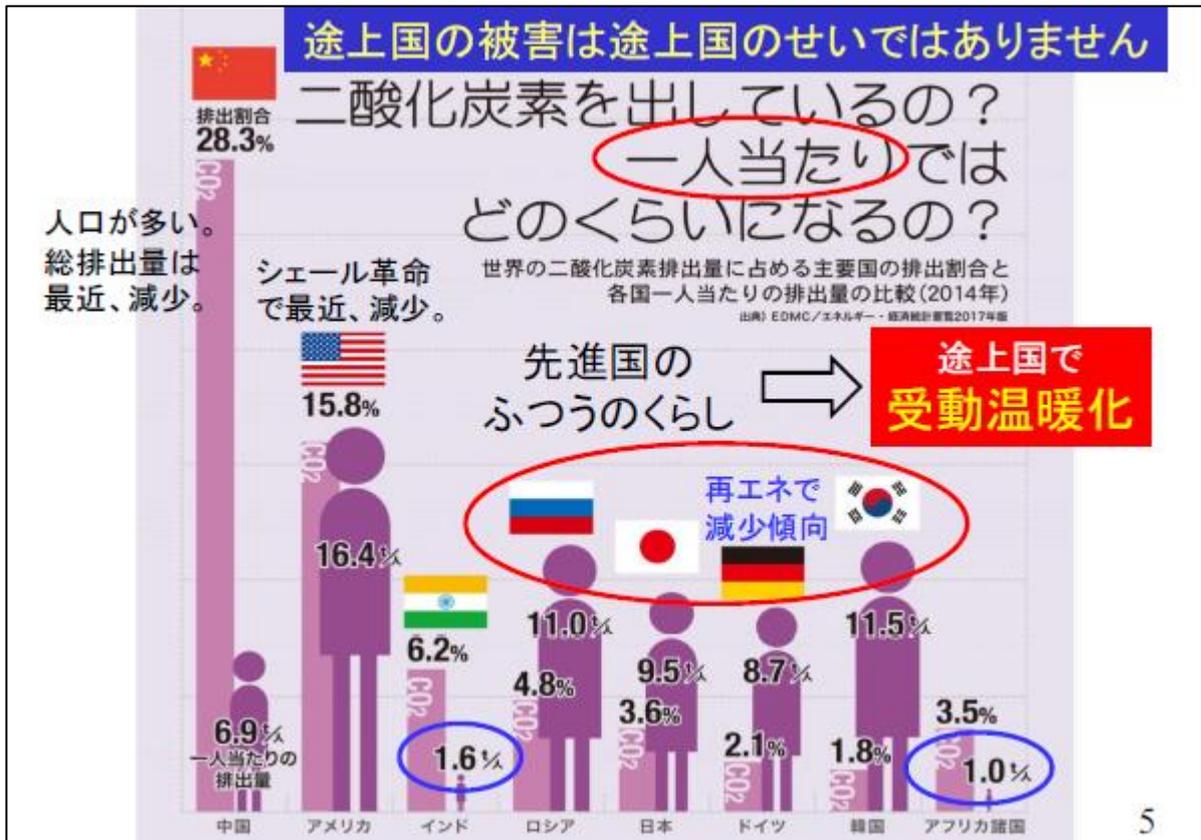
住宅ソーラー設置アドバイス事業、市民共同発電所支援、再エネ電気普及事業、など

<プロフィール>

京都府福知山市出身。2児の父。日本生協連に20年在職。商品開発担当時代の“代表作”は「CO・OP電子レンジにも強いラップ」。高気密高断熱住宅(Q値1.2W、C値0.2cm²) + 太陽光発電 + 太陽熱温水器で自宅のCO₂排出量はマイナス1,200kg。2008年よりPV-Net東京地域交流会世話人。生協組合員向けのソーラー設置支援事業、セミナー講師、市民発電支援など。2012-13理事。

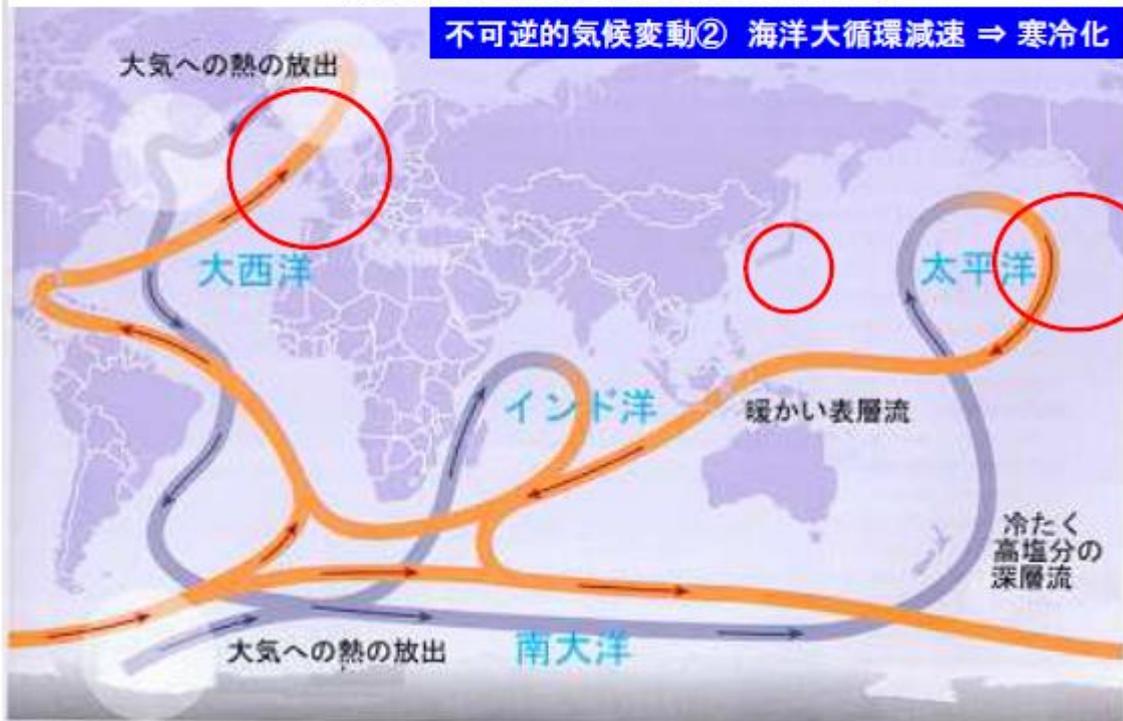






「海洋大循環」で熱が中高緯度に。減速すると寒冷化？

… 『THE DAY AFTER TOMORROW』



「パリ協定」締結！（2015年）

○気温上昇を「産業革命以降2℃未満＝あと1℃未満に」

	中国	2030年までに	GDP当たりのCO ₂ 排出を 60-65% 削減	2005年比
	EU	2030年までに	40% 削減	1990年比
	インド	2030年までに	GDP当たりのCO ₂ 排出を 33-35% 削減	2005年比
	日本	2030年までに	26% 削減 ※2005年比では25.4%削減	2013年比 90年比 ▲18%
	ロシア	2030年までに	70-75% に抑制	1990年比
	アメリカ	2025年までに	26-28% 削減	2005年比

本気の国では「脱炭素革命」が進行中...

世界はビジネスでも、「脱炭素」「再エネ」に急転換



- 石炭火力発電 全廃
フランス ~2023年
イギリス ~2025年
カナダ ~2030年

→ ダイベストメントへ

●EVシフト

仏・英 2040年~

- ★中国の転換が決定的
2013~エコ文明建設
(大気汚染対策から)
2019 新車の10%NEV



“脱炭素”社会へと激変する世界ビジネス、日本は生き残

れるのか？

NHKスペシャル

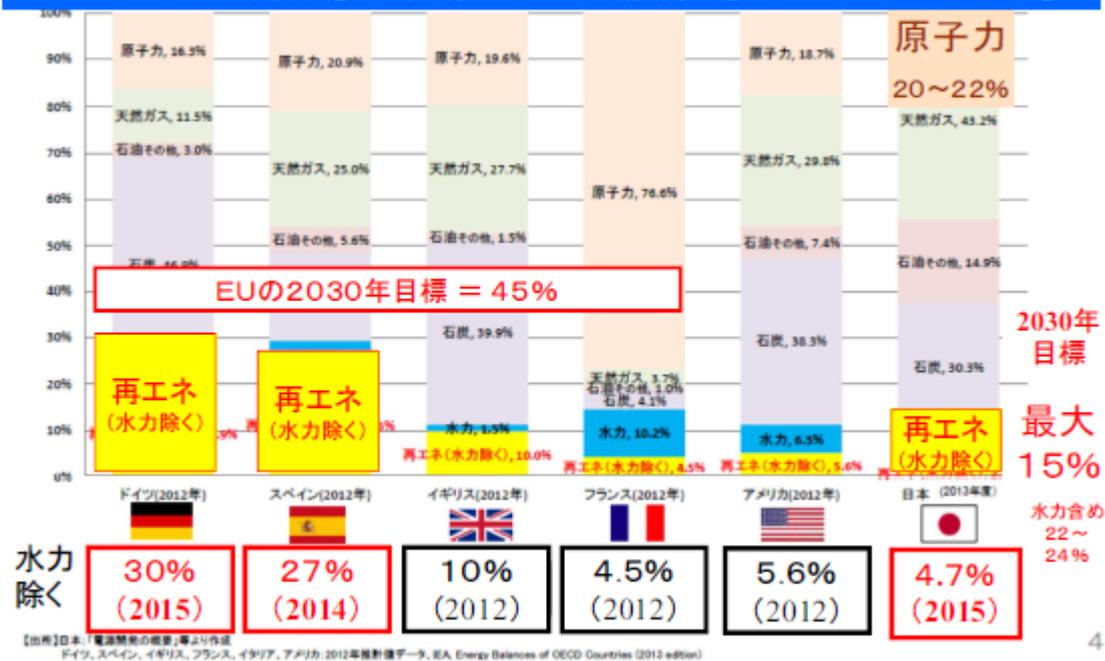
UAE ギガソーラー 太陽光パネル4,000万枚？
JINKOソーラー(中国)、丸紅、日本のメガバンク
日本政府 効率を16%改善した石炭火力発電所をアジアに輸出

【総合】12月17日(日) 後9:15

日本は...

日本は今や再エネ後進国。ドイツやスペインの1/6。 経済産業省 資源エネルギー庁

「エネルギー基本計画」→「長期エネルギー需給見通し(エネルギーミックス)」



2030年目標は今のドイツの半分。10%増。CO2削減は...

我慢しない省エネ ランニングコストを考えると省エネ家電がお得

エアコン(リビング用)	通常品	省エネ型	8トン	CO2(10年分)
販売価格	¥72,000	¥115,000	6トン	▲30%
省エネ性能	★★	★★★★★	4トン	7.4 トン
年間電気代	44,000 円	31,000 円	2トン	5.3 トン
購入価格+電気代10年 差額	512,000 円	425,000 円	0トン	
CO2排出量10年分	7.4トン	5.3トン		

高気密高断熱住宅は光熱費↓・健康に◎

コベネフィット
付随効果・副次効果

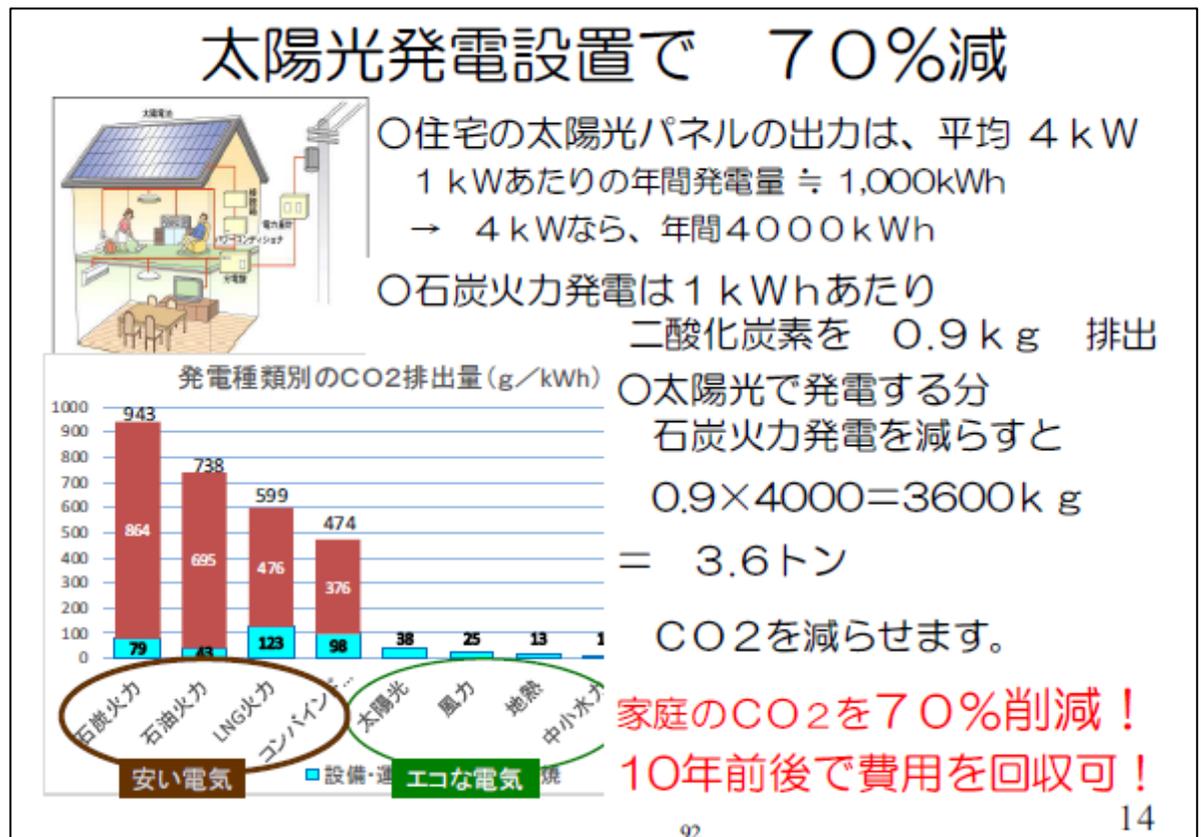
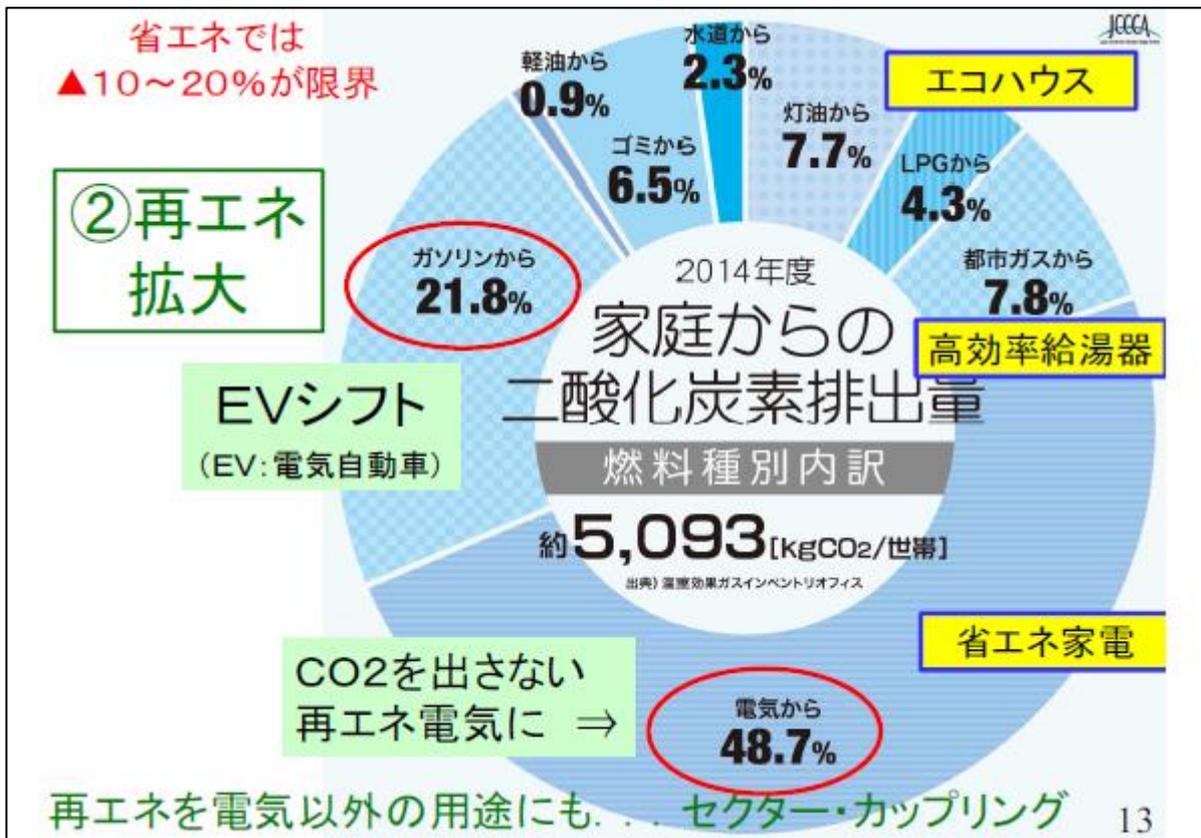
$$Q\text{値(熱損失係数)} = \frac{\text{建物から逃げる熱量[W/K]}}{\text{建物の床面積[m}^2\text{]}}$$

[W/m²・K]

○床面積 = 100 m²、外気温 = 0℃・室温 = 20℃ ... 温度差20度
暖房時間 = 1日10時間 × 100日 の場合の熱損失(暖房負荷)

Q値3.0W → 0.003kW × 100 × 20 × 1000h = 6000 kWh
エアコンのエネルギー消費効率COP=4なら、消費電力**1500kWh**

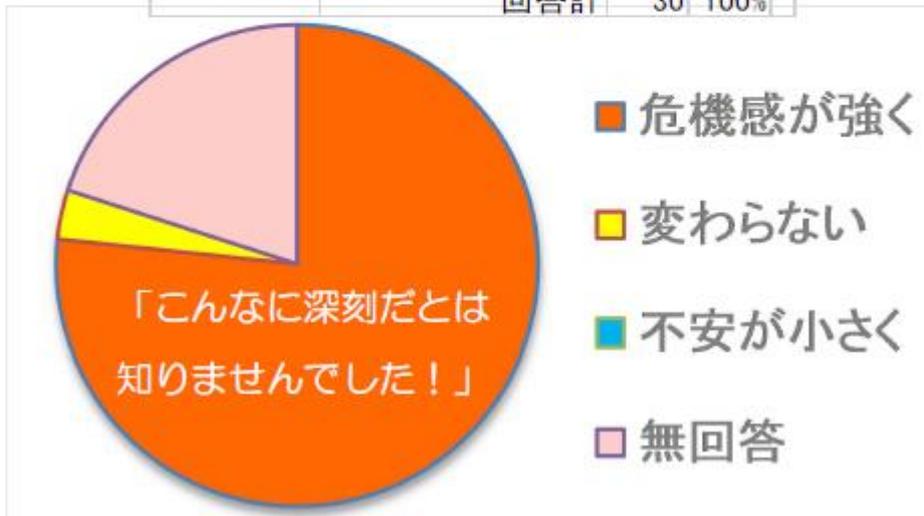
Q値1.5W → 0.0015kW × 100 × 20 × 1000h = 3000 kWh
エアコンのエネルギー消費効率COP=4なら、消費電力 **750kWh**



2017.5.27 コーヤ苗配付会 & 温暖化ミニ講座 アンケート

問4: 温暖化ミニ講座を聴いて意識変化は？

危機感が強く	23	77%
変わらない	1	3%
不安が小さく	0	0%
無回答	6	20%
回答計	30	100%



15

エコプラザの機能各論の前に... 啓発事業全体の中での位置づけ

1. エコプラザの事業は「市の事業」

- 市が事業主体であり続ける組織構造、しくみを
...「啓発はエコプラザの仕事...」のようにお任せ感覚にならない仕掛け。
エコプラザの啓発成果＝市の成果 言葉だけでなく実効性を確保する構造。
- これを機に「環境部環境政策課の仕事」ではなく「市全体の仕事」に。
 - ・緩和策、適応策ともに関連部署が多い。
 - ・「啓発の場づくり」には他部署の協力連携が不可欠。

まず、市全体で
基礎情報を共有

2. Collective Impact

- 行政(市+エコプラザ)、NPO等、事業者等が「成果目標を共有」し
役割分担・強みを結集 → 成果拡大 = 共同の事業主体。
× NPOの活動を市が助成金等で支援、行政の仕事をNPOが安く下請け...
過去の市民協同の限界を乗り越え、新たな枠組構築にチャレンジすべき時

★啓発事業全体の中で、エコプラザがコア？

3. 人が来ない → 「ふつうの市民」の集客力アップ

課題

○広報力

- ・市報 … ガイド&GUIDE欄
閲覧者は限られた層
- ・チラシ… 閲覧率低い、コスト
- ・ネット… スキル、拡散力
- ・知人 … 毎回同じ人、啓発済み

★参加者は既に意識が高い人が多い

○動員力

- ・インセンティブに限界、団体や講師の知名度、企画力、デザイン力

○協力開拓力

- ・団体知名度ナシ、営業体制弱い、地縁ナシ、温暖化関心低い...

★「開拓に成功している人もいる」
「参加2人でも集会やった」
は、Collective なスタンスではない

期待

○広報ルートづくり

- ・地域住民団体、環境系市民団体、地元事業者、CSR企業...
- 等との連携体制づくり

(例)

- 小中学校…子育て層向け環境授業生協…加入20%以上、環境志向商店 …定休日に開催
- 5大学…学習会自主企画
- 夜間住民…業界別。夜間休日開催。

★他部署の協力必須←全市的位置づけ
★協力促進策 … 表彰、認証など

○参加促進策

- ・特典 … 地場野菜、吉祥寺特産品
- ・著名人… さかなクンで公会堂満員
- ・参加感… 「〇〇町減CO2クラブ」
- ・SNS活用

4. 啓発力 ... IPCC報告書から家電、PV、省エネ住宅まで...

課題

○人材

- ・科学的知見～各種対策まで、一定レベルの話ができる人材が少ない。全範囲網羅はかなり大変。
- ・個人の努力に依存、組織的でない
→ 長期継続性の保証ない
→ 他地域への波及可能性△

○ツール

- ・講師各自が独自に作成... 属人的
- ・最新情報に維持更新がたいへん。

期待

○人材育成のしくみ

- 温暖化基礎講座講師
- ・気候変動、対策全般の標準知識
- 各種対策講座講師 (外部調達で可)
- ・省エネ家電 (家電アドバイザー)
- ・太陽光発電、太陽熱温水器、給湯器
- ・省エネ住宅
- ・エコカー ...

講師育成講座

★東京都、環境省の支援制度活用
★大学との連携 → 継続的人材供給

○ツールの底上げ、生産性

- ・基礎～実践体系化、カリキュラム
- ・情報更新
- ・共通ツール、素材提供

5. CO2削減対策 実施支援

課題

○設備や業者の情報が求められる

関心が高まった人が求めること
… 「どこのメーカーがいい？」
「いい業者を紹介して」

期待

○中立的な情報・助言提供

…「見積比較サイト」のイメージ
・設備の基礎知識、Q&A、
・業者リスト
・利用者レビュー

6. 成果の見える化・成果志向 ※成果志向が馴染みやすい分野

課題

○対策実施の成果が見えにくい

・環境家計簿は手間、飽きる。
・市全体のデータは集計が遅い。
・年ごとの気候の影響が大きい。

期待

○見える化ツール開発

・Web版環境家計簿。代行入力対応。
・類似世帯、事業所との比較
・町丁別比較←送電会社、導管事業者
※個人情報不要。



20

団体別・チーム別 ランキング

※町内会別ランキング イメージ

順位	団体種別	団体名	チーム名	世帯数	参加率	団体計削減量	1世帯平均排出量	1世帯平均削減量	90年比削減率
1位	町内会	武蔵野市・地域住民	吉祥寺東町チーム	500世帯	7.6%	-200 t	4,600 kg	-400 kg	8 %減
2位	町内会	武蔵野市・地域住民	吉祥寺南町チーム	450世帯	6.2%	-113 t	4,750 kg	-250 kg	5 %減
3位	町内会	武蔵野市・地域住民	御殿山チーム	120世帯	5.8%	-36 t	4,700 kg	-300 kg	6 %減
4位	町内会	武蔵野市・地域住民	吉祥寺本町チーム	350世帯	5.2%	35 t	5,100 kg	100 kg	2 %増
5位	町内会	武蔵野市・地域住民	吉祥寺北町チーム	300世帯	4.0%	-30 t	4,900 kg	-100 kg	2 %減
6位	町内会	武蔵野市・地域住民	中町チーム	200世帯	2.9%	-40 t	4,800 kg	-200 kg	4 %減
7位	町内会	武蔵野市・地域住民	西久保チーム	150世帯	2.4%	-15 t	4,900 kg	-100 kg	2 %減
∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴

団体別・チーム別 ランキング

※各種団体別ランキング イメージ

順位	団体種別	団体名	チーム名	世帯数	参加率	団体計削減量	1世帯平均排出量	1世帯平均削減量	90年比削減率
1位	生協	バルシステム東京	武蔵野委員会	300世帯	5.0%	-120 t	4,600 kg	-400 kg	8 %減
2位	企業	NTT	NTT武蔵野研究開発セン	200世帯	25.0%	40 t	5,200 kg	200 kg	4 %増
3位	生協	生活クラブ東京	まち・心さしの	150世帯	15.0%	-75 t	4,500 kg	-500 kg	10 %減
4位	自治体	武蔵野市役所	環境生活部	100世帯	83.3%	-40 t	4,600 kg	-400 kg	8 %減
5位	商店会	武蔵野市商店会	サンロード商店街	50世帯	16.7%	-10 t	4,800 kg	-200 kg	4 %減
6位	同窓会	武蔵野3中同窓会	武蔵野3中1990卒	30世帯	12.0%	-3 t	4,900 kg	-100 kg	2 %減
7位	マンション	〇〇マンション	〇〇マンション吉祥	20世帯	10.0%	-2 t	4,900 kg	-100 kg	2 %減
∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴	∴

7. 資金・体制

課 題

○自主財源小さい

- ・無名NPOが温暖化テーマでファンディングは難。
- ・地縁、地域人脈ナシ。

○人件費は安くて当然、の風土

- ・無償～最低賃金が当たり前感強い。
- 企画やマネジメントができる人材はリタイアするまで来ない。
- 若い人の就職先になれない。

○体制固定化 → 毎年高齢化

期 待

○寄付金の受け皿

- ・協賛金（寄付）の**法人住民税優遇**
（例）寄付金－市の経常経費相当額の1/3を控除、1/3温暖化対策、1/3他の政策経費
- ・協賛事業者の表彰、認証
- ・使途特定可能な「ふるさと納税」

○人材供給ルートづくり

- ・5大学…ボランティア、インターン
- ・リタイア層向け説明会
- ・子育て後再就職先として...

8. 「施設」としてのエコプラザに期待すること

○低炭素住宅モデルルーム … 2050年に負の遺産とならない住宅の普及を。

- ・ 2階にマンションLDK + 屋上に太陽熱温水器
 ○ r 太陽光発電 + エコキュート
- ・ 屋上に高断熱戸建平屋50㎡ + 太陽光発電4 kW + 地上にEV
- ・ 省エネリフォーム紹介 … 内窓、断熱窓・断熱ドア、遮熱塗装…
 断面、触って違いを実感できるもの

○啓発情報（展示等）

- ・ 温暖化関連、各種対策関連
 … 省エネ性能の比較だけでなく、基本性能、付加機能、経済性も。
- ・ 非ネット層向け視聴覚資料 … 近くのコミセンでも借りられるように。

○日射量計 → 推定発電量 武蔵野版PV健康診断

温暖化について、もっと知りたい方へ

○インターネット

◆【環境省DVD】気候変動への挑戦（動画）

セクション2 地球温暖化の現状と将来予測

セクション3 温室効果ガスの大幅削減を目指して



◆IPCC AR5の警鐘(メッセージ)～私たちの暮らしと地球温暖化～（動画）

◆JCCCA 全国地球温暖化防止活動推進センター

◆国立環境研究所「ココが知りたい地球温暖化」

◆地球温暖化コミュニケーター用資料

○DVD NHKスペシャル(2014年)

『巨大災害 MEGADISASTER』地球大変動の衝撃

第1集 異常気象 暴走する大気と海の循環

第2集 スーパー台風“海の異変”の最悪シナリオ

第5集 日本に迫る脅威 激化する豪雨



1. 水の学校とは・・・



- 2014年（H26）にスタートした、水に関する様々なテーマを取り上げ、**楽しみながら理解を深め行動につなげる参加型連続講座**で、毎年30名ほどの受講生が参加しています。
- WS形式で各回の体験や見学を通して気がついたこと、学んだことを共有します。
- この気づきの場から、新たな発見を見つけることも多々あります。皆の視点の違いにビックリ。

H29年度の講座内容

- 1**
6/17(土)
※100-4:00

「水の学校 2017」開校式 ～もっと知る武蔵野の水、考えよう水とくらしの深い関わり
ファシリテーター：「水の学校」名誉校長 橋本淳司氏(水ジャーナリスト・アクアスフィア水教育研究所プロデューサー)
 会場：スイングホール
 「水の学校」についてのガイダンスを受け、参加型ゲームや活動で交流を深めましょう。私たちがくらす武蔵野市の水環境や世界の水事情を知り、人間と水との関わりを改めて考える講座です。
- 2**
7/8(土)
※100-5:00

武蔵野の水はどこから？～水道水がつくられる場所を訪ねてみよう
集合：武蔵野市第一浄水場
 私たちの使っている水道水はどのようにつくられているのでしょうか？蛇口の向こう側にある武蔵野市第一浄水場と井戸を訪ねて、上水道の仕組みと特色についてお話をうかがい、武蔵野の水道の「現在」について考えます。
- 3**
9/9(土)
※11:30-※5:30

使った水はどこに行く？～森ヶ崎水再生センター見学
集合：三鷹駅
 武蔵野市からの汚水の一部を処理している、東京都下水道局森ヶ崎水再生センターを訪ね、下水処理の工程に沿って施設を見学し、私たちの生活排水のゆくえを追います。
- 4**
10/14(土)
※9:00-※5:00

雨のめぐりから考える、武蔵野台地の地形・湧水・川～仙川・野川と国分寺崖線
講師：神谷博氏(水みち研究会)
集合：三鷹駅
 市内を流れる仙川は、野川を経て多摩川に注いでいます。野川の源流である国分寺から、崖線をたどりながら、湧水、雨、まち、下水道のつながりやまちの成り立ちについて知識を深めます。
- 5**
11/18(土)
※100-5:00

まちを守る下水道施設～武蔵野市内地下施設見学ツアー
集合：三鷹駅
 私たちが生活する上で普段は見ることのできない、市内の下水道施設の見学をします。足元から生活環境を守っている下水道施設の役割を知り、私たちの身の回りの水環境についての知識を深めます。
 ※雨天の場合は内容を変更いたします。
- 6**
12/16(土)
※100-4:00

修了式・最終講座 「水の学校」から始める武蔵野の未来の水
ファシリテーター：「水の学校」名誉校長 橋本淳司氏(水ジャーナリスト・アクアスフィア水教育研究所プロデューサー)
会場：スイングホール
 これまでの講座を振り返り、感じたことや考えたことを共有します。「水の学校」で得た経験や知識を、くらしに活かし、より多くの人に伝えるためにどんなことができるか考え、武蔵野の水の未来についてアイデアを出し合います。



平成27年度

第8回循環のみち下水道賞・国土交通大臣賞受賞

- 下水道の役割、重要性、魅力、可能性などに気づき、共感し、行動してもらったための効果的な広報活動や環境教育の取組として、受賞
- この受賞は、第1期の修了生で、サポーターとして活動をはじめたメンバーにとっても励みになったと感じています。



2、水の学校サポーターとは

- 「水の学校」修了生で構成されています。
- 修了生が次年度以降の「水の学校」の企画運営に関しても、市職員ともミーティングなどで自由に意見交換しています。
- あくまでも修了生で、卒業生ではない！いつになっても卒業できないみたいです。

サポーターの企画により実施、当日も運営に携わる

水の学校オープン講座：小学生のための浄水場見学＆水質講座
 (平成28年8月23日(火曜日)、武蔵野市第一浄水場にて)



水の学校オープン講座：地下25mの地底探検と玉川上水に出かけよう!
 (平成28年8月12日(金曜日)、小平ふれあい下水道館、玉川上水、東京都薬用植物園にて)



体制

受講生

下水道課

修了生が参加

サポーターミーティング
企画アイデア出しなど

サポーター

講座の運営支援
講座内での解説など
ニュースレター原稿執筆

講座全体の企画、運営
全体コーディネート
受講生の募集等

講座の実施



水の学校

これからの予定

サポーターミーティング

1/27(土)
午後 1:00~4:00
市役所 111 会議室

来年度の活動に向け、これまでの講座で出たアイデアを深めたり、「来年はこんなことをしたい!」という意見を出し合います。これからの「水の学校」の講座やイベントを、一緒に考えてみませんか?

さらに、もっと知りたい！深めたい！ことを共有し、同じ興味関心のメンバーで集まり自主活動。

水の学校から派生した活動。自分のやりたいこと、を実践しています。



仙川探検隊



湧水めぐり、酒蔵めぐり、昔の水道など・・・
「プロジェクトWET」エデュケーター講習会資格取得講座

楽しくなければ続かない！

●受講生の時は、**学校**で楽しみながら学ぶ。

サポーターになると・・・

自分のやりたいこと・見たいことはオープン講座
や見学会・まちあるきなど **「大人の遠足」**で！

自分の伝えたいこと・より知りたいことはステッ
プアップ講座や連続講座でなど **「大人の部活」**
で！

楽しくないと・遊びがないと続かない！

8/25 クリーンセンター見学会&WS

サポーター向けにクリーンセンター見学会と(仮称)エコプラザに関するWSを実施しました。

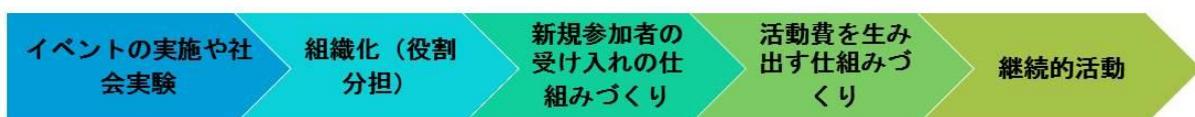
仮称)エコプラザに関するWS結果まとめ

どんな使い方	機能	運営	こんな施設になってほしい
<ul style="list-style-type: none"> 周辺施設との一体的な利用 エコビットを音楽ホールに(音響施設になる・貴重な空間である) 近隣コミュニティセンターとの棲み分け 食事ができる(体育館にもクリーンセンターにも飲食できる場所がない) 生き物を観察できる 子どもたちが遊べる 多世代が交流できる 清流を復活させ、ホテルを觀賞できる 	<ul style="list-style-type: none"> 熱水利用(ヘルスセンター・温浴施設・足湯) 調理室 目玉施設はなにかほしい 情報発信基地 コーディネート機能(団体等のプラットフォーム) 環境関連の相談窓口 人材(コーディネーター) 小平の下水道館のような参加型博物館 地産地消レストラン 駐車場・駐輪場 屋上菜園・屋上緑化 エコ機能の見える化(太陽光発電、雨水利用等) 音楽ホール 	<ul style="list-style-type: none"> 利用方法を分かりやすく ルールはゆるやかに Ekoというとしてつけたような名称でなく 施設名称は公募 委託業者に丸投げで業者任せにならないように 臨機応変な対応(利用者の声を聞き入れる) 何に利用するか、何があるか分かりやすく発信 	<p>クリーンセンターのコンセプトが雑木林なら+水と風。 武蔵野の四季を感じられる。(清流+まちなみ) 四季の風景がある マルチフルな文化施設 ファミリー世代も高齢者もみんなが来るエコプラザ 展示だけでなく、参加型施設 自由に、もしくは単純なプロセスで利用できる 地域の魅力のPR施設 武蔵野の風景と童謡を併せ持ったメルヘン館 音楽を楽しめる</p> <p>本物・真実を見る眼を養う 地域を知る 癒しの空間</p>

3、今後の課題

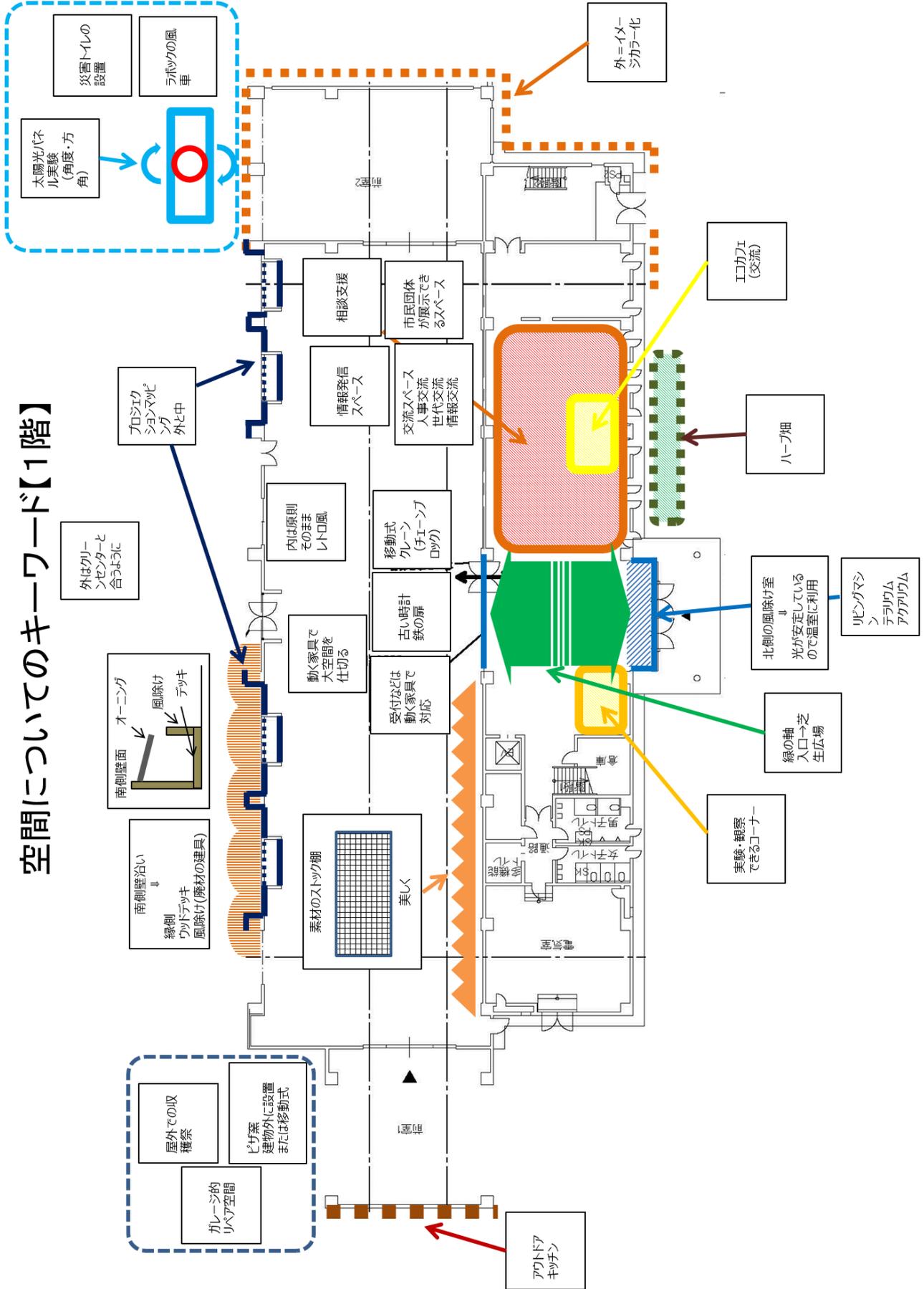
- 「水の学校」は市の計画では5年事業であり、来年度節目の5年目を迎えます。
- 水の学校サポーターは、修了生の有志からなっており組織だった活動団体ではなく、活動拠点もありません。みんなで気軽に集まって話せる場があるといいね。

■大人の部活の展開???. . . .

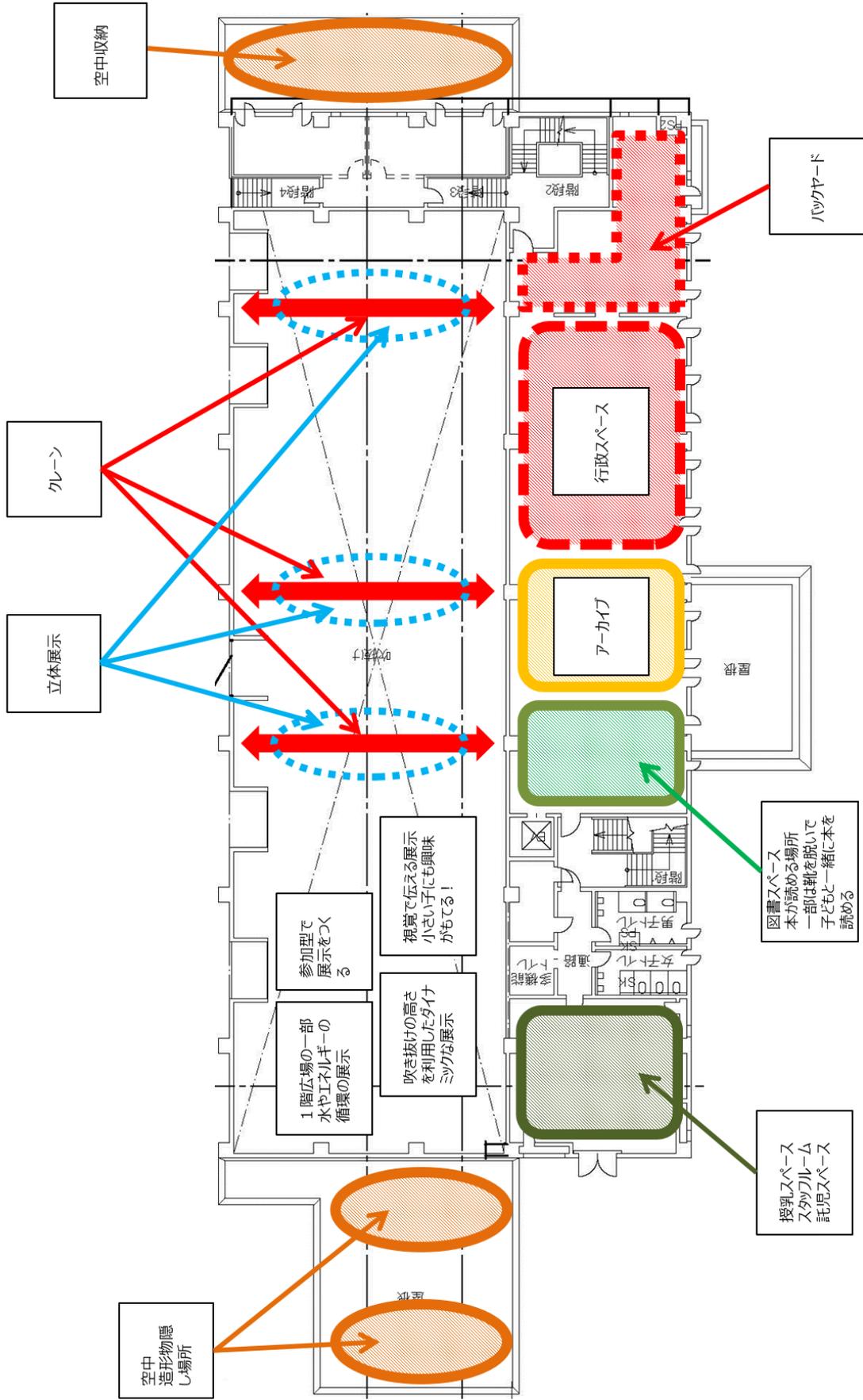


機能・空間活用グループワークまとめ

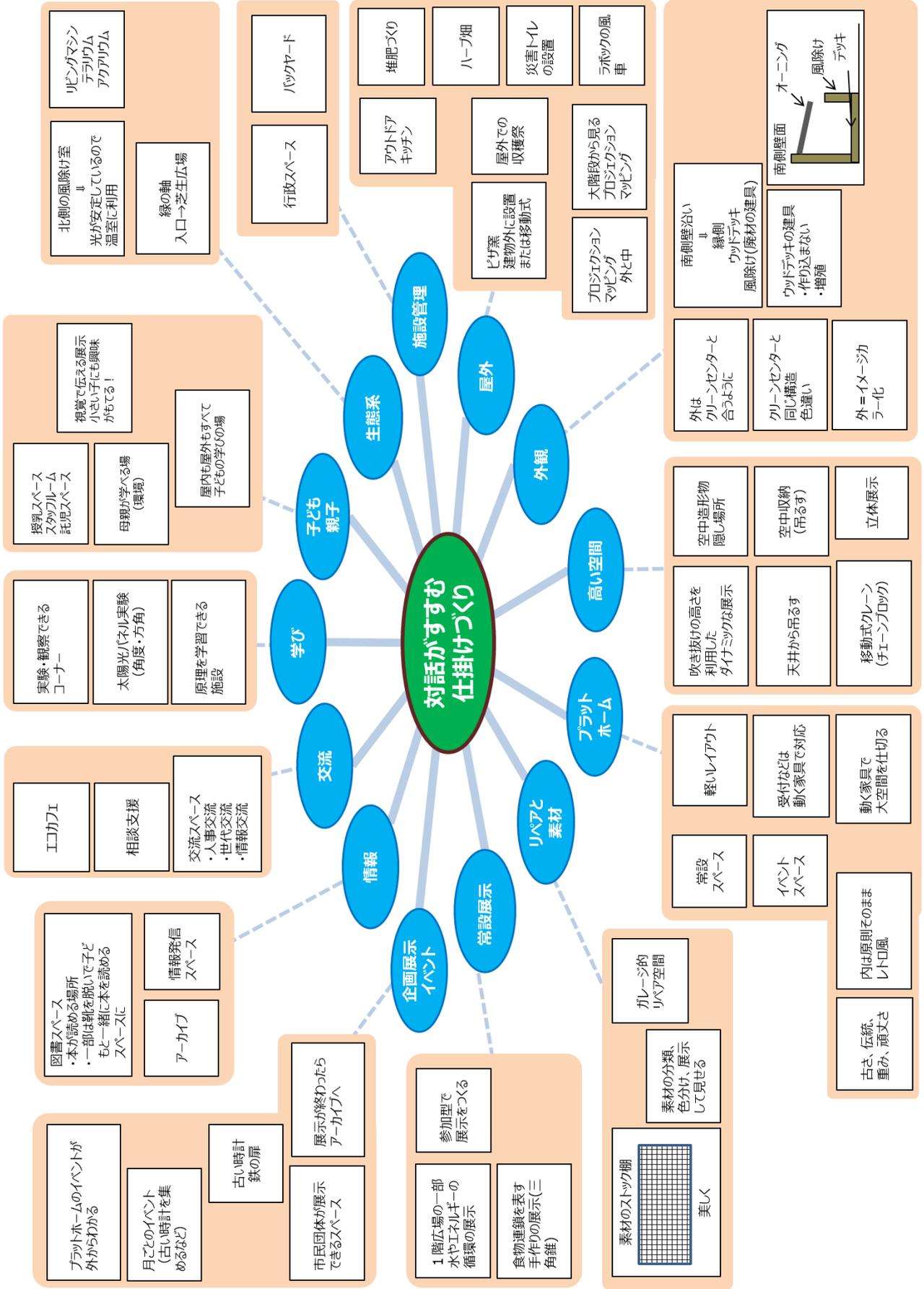
空間についてのキーワード【1階】



機能・空間活用グループワークまとめ 空間についてのキーワード【2階】

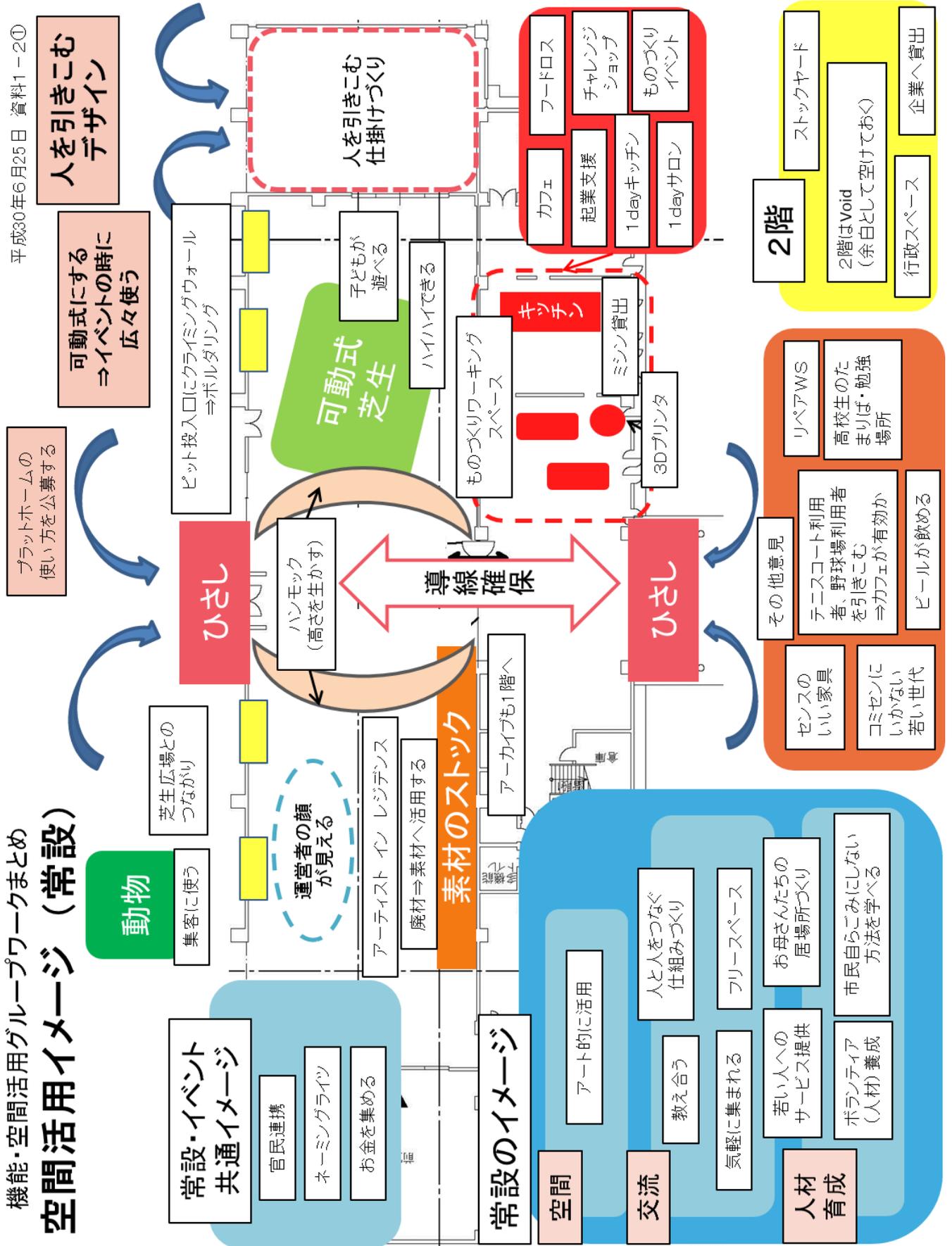


機能・空間活用グループワークまとめ 機能についてのキーワード

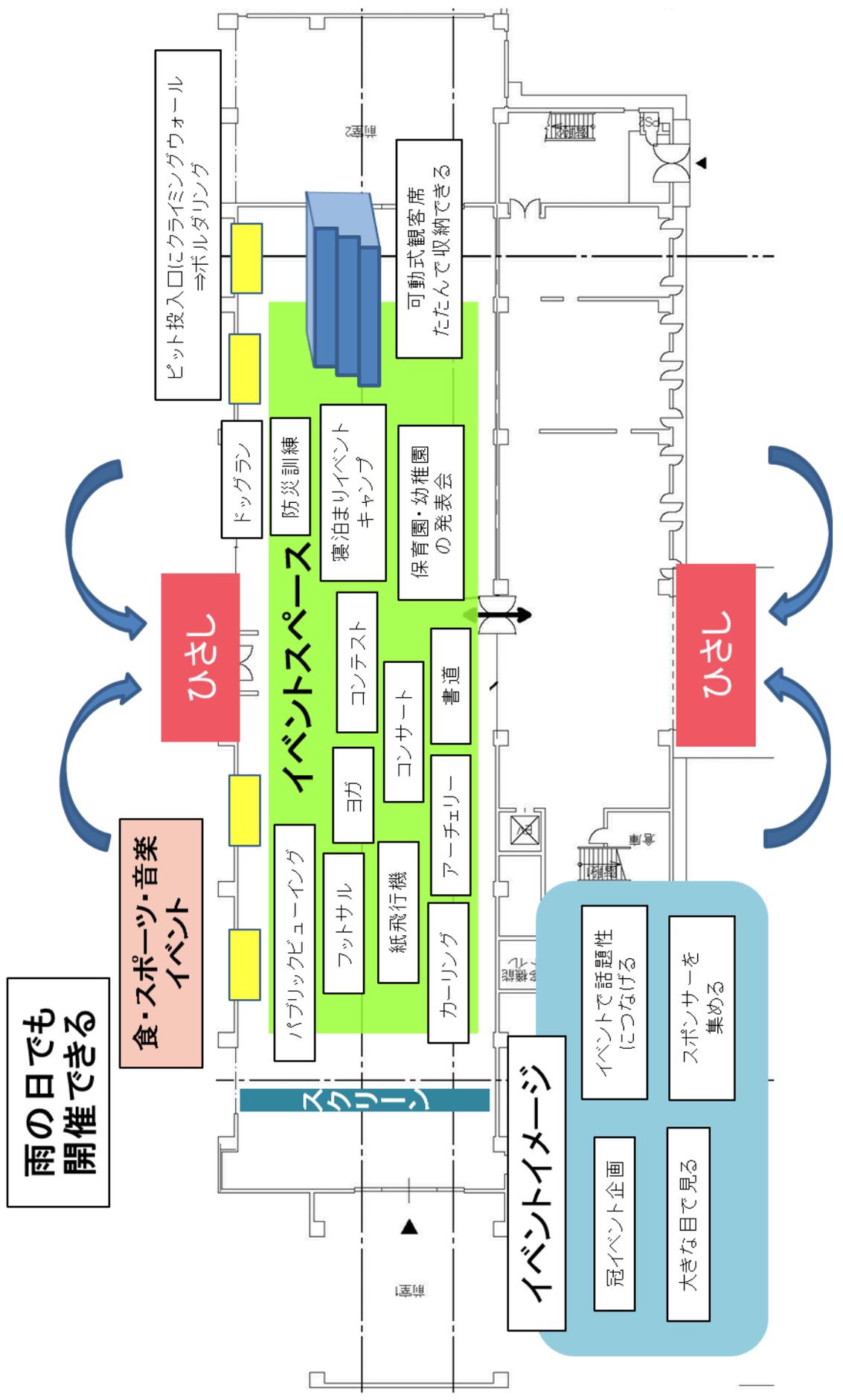


機能・空間活用グループワークまとめ
空間活用イメージ（常設）

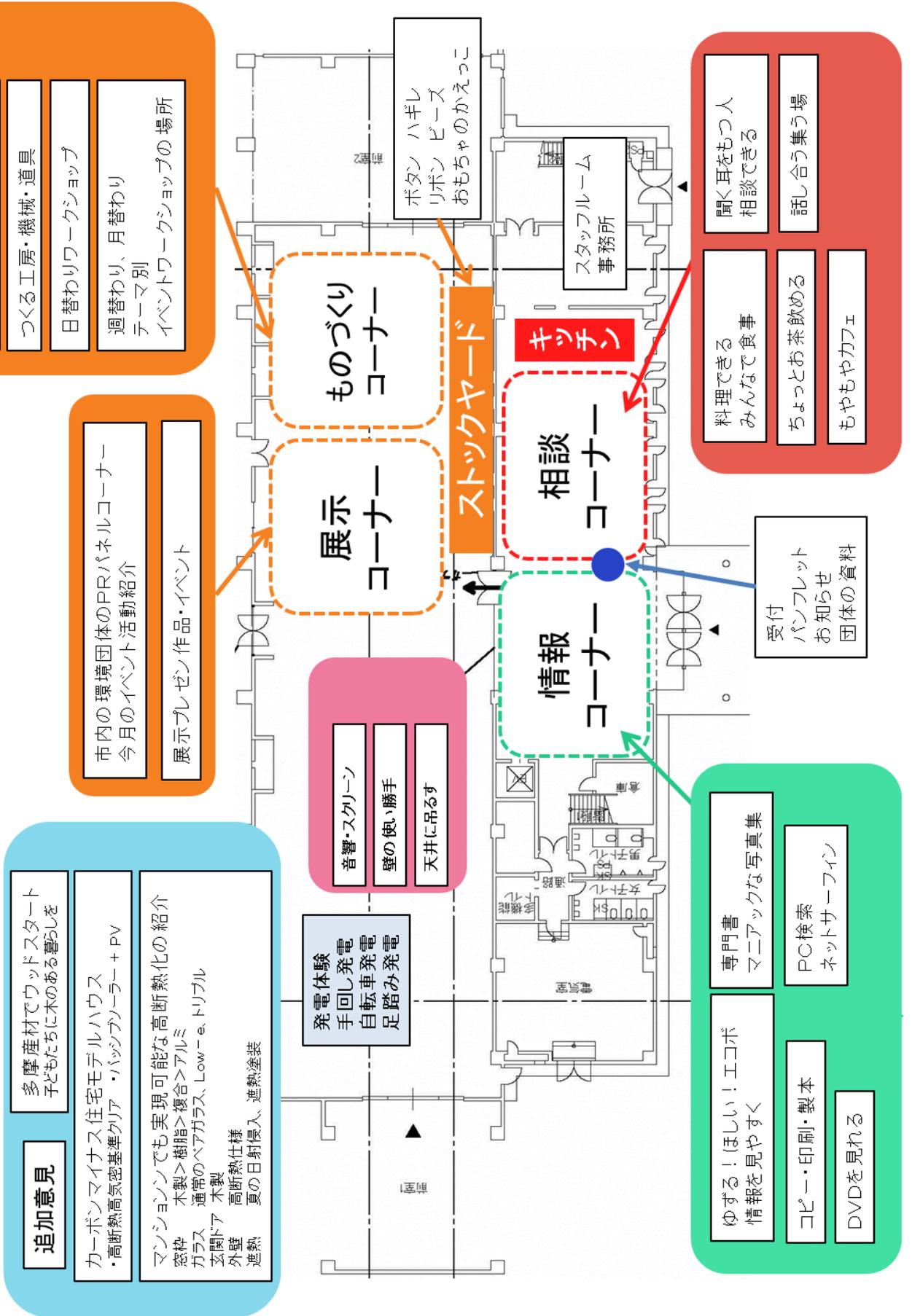
平成30年6月25日 資料1-2①



機能・空間活用グループワークまとめ 空間活用イメージ（イベント）



機能・空間活用グループワークまとめ
施設内部空間活用提案



平成30年7月発行

発行：武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議
 事務局：武蔵野市環境部環境政策課
 電話：0422-60-1841（直通）

エコプラザ（仮称） ニュースレター

Vol. 1

エコプラザ（仮称）って何？

エコプラザ（仮称）は、クリーンセンターの建て替えにあたり、学識経験者や周辺地域の方、関係市民団体などで構成された新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会において、エネルギー供給施設としてのエコセンター（新工場棟）とともに、ライフスタイルの変化やごみの減量を促す環境啓発の拠点として提案された施設です。

環境への配慮（＝建物を壊さないでガレキを出さない）から、クリーンセンター敷地内の旧事務所棟と旧プラットホームを改修して再利用するもので、平成32年度中の開設を目指しています。

平成29年2月には、同協議会から出された「エコプラザ（仮称）事業のあり方中間まとめ」を受けて、全市的な視点で施設のあり方について検討するエコプラザ（仮称）検討市民会議が立ち上がり、ごみ・資源、緑、水循環、エネルギーなど、多様な環境問題や環境の大切さをわかりやすく伝え、一人一人の環境にやさしい行動を促す施設を目指し、検討を進めています。

旧プラットホームってどんなところ？

ごみ収集車がピットにごみを投入する場所だった旧プラットホームは、おおよそ縦54m×横15m、高さ8mの屋根のある大空間です。これまでもこの場所を利用して、様々なイベントが開催されてきました。

今後、エコプラザ（仮称）の機能に合わせた空間の活用方法について検討していきます。



ごみ収集車がピットにごみを投入する様子



イベントの様子

武蔵野クリーンセンター配置図



エコプラザ（仮称）検討の歩み

年度	エコプラザ（仮称）に関連する委員会・計画等	エコプラザ（仮称）についての検討内容
平成21	<ul style="list-style-type: none"> ○（仮称）新武蔵野クリーンセンター施設まちづくり検討委員会最終報告書 ○（仮称）新武蔵野クリーンセンター施設建設計画市の基本的な考え方 	<ul style="list-style-type: none"> ○普及啓発・情報発信機能の確保、リペア工房の併設
平成22 ・ 平成23	<ul style="list-style-type: none"> ○新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会提言 ○新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設基本計画提言 ○新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設基本計画 	<ul style="list-style-type: none"> ○環境への配慮から事務所棟・プラットフォームを再利用 ○地球温暖化等を考えるエコプラザ（仮称）は、低炭素モデルの実現、地域力の向上、まちづくりとの連携を進める拠点として展開
平成24	<ul style="list-style-type: none"> ○第二期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会報告書 	<ul style="list-style-type: none"> ○必要な視点：ライフスタイルを変える ごみ減量につなげる ○対象：広く全市民 ○機能：環境啓発、リユース・リサイクル、 交流・ネットワーク・情報発信
	<ul style="list-style-type: none"> ○第五期長期計画 	<ul style="list-style-type: none"> ○環境啓発の受発信機能、普及啓発の基盤整備
	<ul style="list-style-type: none"> ○第五期長期計画・調整計画 	<ul style="list-style-type: none"> ○既存施設の有効活用、地域の意見を聞きながら全市民的な議論を行う
平成28	<ul style="list-style-type: none"> ○第三期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会報告書 ○第四期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会エコプラザ（仮称）事業のあり方中間まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ごみの減量を市民に促す。それを創造的に 行う拠点 ○機能：学び、創造、コミュニケーション ○広範な環境啓発機能の付加
	<ul style="list-style-type: none"> ○有識者や環境市民団体、公募市民などで構成されたエコプラザ（仮称）検討市民会議を設置 	<ul style="list-style-type: none"> ○全市民的な視点で施設のあり方について検討

これまでの検討内容から

平成29年2月に設置されたエコプラザ（仮称）検討市民会議では、機能や運営形態など、施設のあり方について検討を進めています。

これまで検討してきた内容の中から、今回はコンセプトと4つの基本方針をご紹介します。これらの基本方針をもとに、より良い成果を導き出すため、議論を重ねています。

これからも、ニュースレターやホームページなどを通じて、検討内容などをお知らせしていきます。

今後の予定

- 第14回会議 7月12日（木）市役所412会議室
- 第15回会議 8月1日（水）市役所111会議室
- *いずれも午後7時～午後9時まで
- *先着順で20名まで傍聴ができます。詳しくは市報、ホームページをご覧ください。

コンセプト

共創による未来に誇れる場づくりとしてのエコプラザ
みんなでつくる！子どもたちに未来をつなぐエコプラザ

4つの基本方針

- **低炭素モデルの実現**
地球温暖化がこれ以上進まないように、環境にやさしい行動をみんなに働きかけていく
- **地域力の向上**
環境のことをみんなで考える地域をつくり、まち全体に広めていく
- **まちづくりとの連携**
緑や景観、バリアフリー化などにより、より良いまちづくりをめざしていく
- **メタボリズム（＝新陳代謝）**
時代や環境、市民ニーズの変化などに対応しながら、施設も関わる人も、フレキシブルに学び合い、育ち続けていく

武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議
検討のまとめ
平成 30 年 8 月

発行／武蔵野市環境部環境政策課
〒180-8777 武蔵野市緑町 2-2-28
電話 0422-60-1841（直通）